

263.3

190

小学唱歌教授細目

国立国会図書館



始



518217

263:

190

東京高等師範學校附屬小學校內
初等教育研究會編纂

小學唱歌教授細目

東京 培風館

263-190



小學
唱歌教授細目

東京高等師範學校附屬小學內
初等教育研究會編纂



東京
培風館發行

大正
12.7.25
內文

目次

本科教授の要旨……………一
本科教材の選擇排列……………一
本細目實施上並に教授上の注意……………二
尋常第一學年……………五
第一學期……………五
四月……………五
五月……………六
六月……………八
七月……………九
第二學期……………九
九月……………一〇
十月……………一一
十一月……………一三
十二月……………一四
第三學期……………一四

一月.....	一六
二月.....	一六
三月.....	一八
尋常第二學年.....	二一
第一學期.....	二一
四月.....	二一
五月.....	二三
六月.....	二四
七月.....	二五
第二學期.....	二六
九月.....	二七
十月.....	二七
十一月.....	二九
十二月.....	三一
第三學期.....	三一
一月.....	三一
二月.....	三一
三月.....	三一

尋常第三學年.....

第一學期.....	三一
四月.....	三一
五月.....	三二
六月.....	三三
七月.....	三四
第二學期.....	三四
九月.....	三四
十月.....	三五
十一月.....	三五
十二月.....	三五
第三學期.....	三五
一月.....	三五
二月.....	三五
三月.....	三五
尋常第四學年.....	三五
第一學期.....	三五
四月.....	三五

五月

六月

七月

第二學期

九月

十月

十一月

十二月

第三學期

一月

二月

三月

尋常第五學年

第一學期

四月

五月

六月

七月

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

第二學期

九月

十月

十一月

十二月

第三學期

一月

二月

三月

尋常第六學年

第一學期

四月

五月

六月

七月

第二學期

九月

十月

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

十一月.....一〇六

第三學期

一月.....一〇

二月.....一一

三月.....一三

高等第一學年

第一學期

四月.....一七

五月.....一三

六月.....一四

七月.....一六

第二學期

九月.....一七

十月.....一九

十一月.....三一

十二月.....三三

第三學期

一月.....三四

二月.....三六

三月.....三六

高等第二學年

第一學期

四月.....四一

五月.....四三

六月.....四五

七月.....四六

第二學期

九月.....四七

十月.....四九

十一月.....五一

十二月.....五三

第三學期

一月.....五四

二月.....五五

三月.....五七

初等教育研究會編纂

第一章 唱歌教授の要旨

第二章 唱歌教授の細目

第三章 唱歌教授の要旨

第四章 唱歌教授の細目

第五章 唱歌教授の要旨

第六章 唱歌教授の細目

第七章 唱歌教授の要旨

第八章 唱歌教授の細目

第九章 唱歌教授の要旨

第十章 唱歌教授の細目

第十一章 唱歌教授の要旨

第十二章 唱歌教授の細目

第十三章 唱歌教授の要旨

第十四章 唱歌教授の細目

第十五章 唱歌教授の要旨

第十六章 唱歌教授の細目

第十七章 唱歌教授の要旨

第十八章 唱歌教授の細目

第十九章 唱歌教授の要旨

第二十章 唱歌教授の細目

第二十一章 唱歌教授の要旨

第二十二章 唱歌教授の細目

第二十三章 唱歌教授の要旨

第二十四章 唱歌教授の細目

第二十五章 唱歌教授の要旨

第二十六章 唱歌教授の細目

第二十七章 唱歌教授の要旨

第二十八章 唱歌教授の細目

第二十九章 唱歌教授の要旨

第三十章 唱歌教授の細目

第三十一章 唱歌教授の要旨

第三十二章 唱歌教授の細目

第三十三章 唱歌教授の要旨

第三十四章 唱歌教授の細目

第三十五章 唱歌教授の要旨

第三十六章 唱歌教授の細目

第三十七章 唱歌教授の要旨

第三十八章 唱歌教授の細目

第三十九章 唱歌教授の要旨

第四十章 唱歌教授の細目

第四十一章 唱歌教授の要旨

第四十二章 唱歌教授の細目

第四十三章 唱歌教授の要旨

第四十四章 唱歌教授の細目

第四十五章 唱歌教授の要旨

第四十六章 唱歌教授の細目

第四十七章 唱歌教授の要旨

第四十八章 唱歌教授の細目

第四十九章 唱歌教授の要旨

第五十章 唱歌教授の細目

第五十一章 唱歌教授の要旨

第五十二章 唱歌教授の細目

第五十三章 唱歌教授の要旨

第五十四章 唱歌教授の細目

第五十五章 唱歌教授の要旨

第五十六章 唱歌教授の細目

第五十七章 唱歌教授の要旨

第五十八章 唱歌教授の細目

第五十九章 唱歌教授の要旨

第六十章 唱歌教授の細目

第六十一章 唱歌教授の要旨

第六十二章 唱歌教授の細目

第六十三章 唱歌教授の要旨

第六十四章 唱歌教授の細目

第六十五章 唱歌教授の要旨

第六十六章 唱歌教授の細目

第六十七章 唱歌教授の要旨

第六十八章 唱歌教授の細目

第六十九章 唱歌教授の要旨

第七十章 唱歌教授の細目

第七十一章 唱歌教授の要旨

第七十二章 唱歌教授の細目

第七十三章 唱歌教授の要旨

第七十四章 唱歌教授の細目

第七十五章 唱歌教授の要旨

第七十六章 唱歌教授の細目

第七十七章 唱歌教授の要旨

第七十八章 唱歌教授の細目

第七十九章 唱歌教授の要旨

第八十章 唱歌教授の細目

第八十一章 唱歌教授の要旨

第八十二章 唱歌教授の細目

第八十三章 唱歌教授の要旨

第八十四章 唱歌教授の細目

第八十五章 唱歌教授の要旨

第八十六章 唱歌教授の細目

第八十七章 唱歌教授の要旨

第八十八章 唱歌教授の細目

第八十九章 唱歌教授の要旨

第九十章 唱歌教授の細目

第九十一章 唱歌教授の要旨

第九十二章 唱歌教授の細目

第九十三章 唱歌教授の要旨

第九十四章 唱歌教授の細目

第九十五章 唱歌教授の要旨

第九十六章 唱歌教授の細目

第九十七章 唱歌教授の要旨

第九十八章 唱歌教授の細目

第九十九章 唱歌教授の要旨

第一百章 唱歌教授の細目

唱歌教授細目

初等教育研究會編纂

一 本科教授の要旨

唱歌教授は、平易にして雅正なる歌曲を巧妙に歌ひ且つ鑑賞する能力を得させて、審美的並に道徳的の感情陶冶に資し、兼て聴覚及發聲機關の發達を圖り、音樂に關する初歩の觀念を教養する。

二 本科教材の選擇排列

- 一 歌曲の題材は修身・國語・地理・歴史等の諸科に關係する事項及び兒童の環境に因みたるものより選ぶこととした。
- 二 歌詞は、各學年讀本の程度を斟酌して之を選擇し、低學年は口語體の平易雅正なるを、漸次學年の進むに従ひ程度を高め、詩的並に道徳的情操を喚起し得るものに及ぼした。
- 三 曲譜は、各學年兒童の發達狀況に應じて、特に其の調子拍子節奏等を考慮し、低學年には單純にして快

教授の要旨・教材の選擇排列

- 三 活なるを、漸次に高尚優美なるを選択して之を排列した。
- 四 教材を選択排列する方法に、學習と云ふことを主とするものと、興味と云ふことを主とするものがある
- 二 兩者各々得失があるから、この細目では之を折衷して完璧を期することにした。
- 五 鑑賞資料も亦、略々教材と同様なる標準の下に選擇し之を排列した。但し器楽曲は、高學年にのみ聽かせることにした。

三 本細目實施上並に教授上の注意

- 一 第三學年迄は、總て聽唱法(教師の模範に據りて歌はせる方法)によりて教授し、第四學年より第六學年迄は、樂譜視唱法(樂譜を視て歌はせる方法)によりて教授する。第一學年は、全然口授法によりて、第二學年は、極めて簡單なる點線圓等の符號を使用して、第三學年第三學期には、樂譜に關する基本知識を授け、第四學年よりは、樂譜に據りて視唱せしめる。
- 二 教授の順序は、第二學年迄は、授業時間の凡そ四分の一以内を割きて基本練習を行ひ、次に歌曲を授け四分の一は既習歌曲の復習に充當する。讀本の進度に鑑み、歌詞を讀み得る時期に至らば、歌詞を提示して授ける。この際は、歌詞の讀み方及内容の解説等を行ひ、次に教師が範唱を示すこと一二回、斯くて一樂句宛を模唱せしめて完成する。樂器の伴奏は、稍々習熟したる後に之を附し、熟唱玩味せしめる。

- 三 基本教練は、比較的に興味が薄く、厭惡し易いから、低學年には成可く教材に關聯したるを必要に應じて行ひ、高學年に進むに従ひ、組織的な基本教練をも授けて、歌曲を自由に唱謠し得る力を確實にせねばならない。
- 四 樂典大要は、歌曲を唱謠するに必要な事項のみを授け、關係のないものは出来るだけ省略すべきである。そして理論の説明は之を避け、抽象的具體的に授けるのが効果が多い。
- 五 優秀なる樂曲を鑑賞させると云ふことは、極めて大切なことであるから、機會ある毎に力めて多くの樂曲を聽かせて、豊かな樂想を涵養すべきである。
- 六 本細目中、高學年に配當したる教材中、樂譜に據ることの出来ない歌曲は、歌詞のみにより範唱して歌はせる。尙、復習は、成可く多く課して曲趣を充分に玩味させねばならぬ。
- 七 本細目中に選擇したる歌曲は、左の唱歌集中に掲載せられてある。

文 部 省	小學唱歌集	音 樂 學 校	中學唱歌
同	尋常小學唱歌	同	中等唱歌
田村虎藏編	少年唱歌	伊澤修二編	小學唱歌
同	幼年唱歌	福井直秋編	中等唱歌集
同	尋常小學唱歌	同	單音唱歌

唱歌教授細目

田村虎藏編	國民教育新撰唱歌	中田章編	中學唱歌集
吉丸一昌編	新作唱歌	永井幸次編	女子音樂教科書
小山作之助編	重音唱歌	山田源一郎編	女學唱歌
田村虎藏編	女學唱歌	阿	中等教育唱歌集
阿	中學唱歌	阿	統合女學唱歌
楠美恩三郎編	中等教科唱歌集	北村手晴編	中等音樂教科書
梁田小松編	大正幼年唱歌	青木存義編	かあいゝ唱歌
阿	大正少年唱歌	弘田龍太郎編	童謡集
成田爲三編	赤い鳥樂譜	中山晋平編	子供の歌
山本壽編	尋常小學唱歌		

五細目

尋常第一學年

第一學期

教授豫定時數凡廿六時

月・週	日	事項
四月	一	日の丸の旗 (文唱一)
二	二	要旨 本歌曲を歌はしめて、我が日章旗が殊の外に美しく且つ勇ましく國旗であることを知らせ、愛國の眞情を養ふ。
三	三	要項
四	四	一 口授聽唱法
五	五	二 國旗に就て説話をなし、歌詞を口誦して齊誦せしめる。以下之に準ずる。
		三 二小節宛にて氣息をつがせる。但し氣息の次の音は、拍子正しく歌ひ出す。
		四 叫聲を發しないやうに、軽く楽しく歌はせる。
		五 曲想は快活に、速度は緩徐に失せぬやうに注意する。
		○唱歌教室に於ける心得
		(イ) 行進曲に歩調を合はして出入する。
		(ロ) 樂器の合圖で敬禮をする。
		(ハ) 姿勢を正しくして歌ふ。

尋常一學年第一學期

五

五月

鳩

要旨

本歌曲を歌はせ、動物に對する愛憐の情を養ひ、快活なる感情を起させる。

要項

一口授聽唱法

11 1 2 3 — | 5 3 1 2 | 3 — 0 | 6 5 3 2 | 1 — 0 ||

右を豫備教練として、へ調ラ音にて授ける。

三 「ポーポーポー」の擬聲語は、軽いスタッカト風に歌はしめる。

四 高い音は、極めて軽く美しく歌ふ。

五 曲想は快活に、速度は表示せられたる通りに歌ふ。

○基本教練

音程練習 1 2 3 — | 3 2 1 — | 1 3 5 — | 5 3 1 — ||

右をへ調ラ音又はラ音にて一小節宛を授ける。

○補充教材

庭の雀

(新作唱)

この歌曲に依りて、日常目にしつゝある可愛らしき雀と兒童の實際生活とを結びつけて、可憐なる心情へと導く。

犬と猫

(新作唱)

要旨 本歌曲を授け、讀本にて學びたる事項に關聯して愛憐の情を養ふ。

要項

一口授聽唱法

11 5 5 3 6 — | 1 5 3 2 — | 2 5 3 2 | 1 — 0 ||

右を豫備教練としてへ調ラ音にて授ける。但し拍子を主として歌はしめる。

三 この曲は、跳躍する音程が多いから、各音を確實に歌ふ。

四 擬聲語「ワンワンワン」及「ニャンニャンニャン」は、可愛らしく弱聲で歌ふ。

五 曲想は愉快に、速度は中等の速さにて歌ふ。

○基本教練

音程練習 1 5 1 — | 前週の練習に更に上記のを附加して授ける。タ音にても歌ひ發音の練習もする。

鑑賞資料

うちのボチ

(山本唱)

この歌曲を正教材と聯絡して聽かしめ、前項の目的を徹底する。但し鑑賞する態

七 六

六

一九八〇月

猿

(幼唱初)

要旨 本歌曲を授け、讀本にて授けたる事項の徹底を計り、童話の情趣を玩味させて快活なる情操を養ふ。

要項

一口授聽唱法

11 3-23 5535 | i-6i | 5-23 | 1-0

右を豫備教練として、ニ調ラ音にて授ける。

三 附點音符の處と普通音符の處は、混同せぬやうに歌ひ分ける。

四 歌詞中の「チョンギル」は、作者の訂正によりて「ハサミキル」に歌ふ。

五 曲想は快活に、速度は緩徐に失せぬやうに歌ふ。

○基本練習

音程練習 1234 | 321- | 132- | 231- ||

右をニ調ラ音にて授ける。

○補充教材

めくら 鬼 (新作唱)

この歌曲を歌はせ、實際生活と結びつけ、快活なる情を喚起さる。

七

二二 月

蟹

(新作唱)

要旨 本歌曲を授け、蟹狩の情景を描出して、快活純美なる情操を養ふ。

要項

一口授聽唱法

11 5050 53450 | 3322 | 1-0

右を豫備教練として、ニ調ラ音にて授ける。

三 休符が諸所に現はれて居るから、正確に休止することに注意する。

四 歌詞中の「ホーホー」の呼び聲は、軽く美しく歌ふ。

五 曲想は軽快なる感じの起るやうに、速度は中等の速さに歌ふ。

○基本教練

音程練習 135- | 531- | 153- | 351- ||

右をホ調アタラ等の各音にて練習する。

聽音練習 歌曲を利用して、高き音、低き音等を聴かしむるも可なり。

○鑑賞資料

噴水 (大正唱)

この歌曲を鑑賞せしめて、噴水の面白さと涼しさとを感じの上に現はす。

第二學期

教授豫定時數凡廿六時

月・週	教 授 事 項
九月 三二一	<p>蜻蛉 つり (琴唱)</p> <p>要旨 本歌曲を授け、兒童の實際生活に關聯させて、蜻蛉つりの光景を彷彿し、快活なる情を起させる。</p> <p>要項</p> <ol style="list-style-type: none"> 一口授聽唱法 この學期から歌詞を板書して視唱せしめる。 1 1 3 5 6 5 - . 0 i - 7 6 5 - . 0 5 2 2 3 1 - . 0 右を豫備教練として、ニ調タ音にて授ける。 附點音符の歌ひ方に注意する。 輕快到齒切れよく歌ふことに力める。 曲想は快活に、速度は四分音符にて九十六位に歌ふ。 <p>○基本教練</p> <p>音程練習 1 2 3 4 5 - . 0 5 4 3 2 1 - . 0 右をハ調タ音にて、二小節宛練習する。</p> <p>○補充教材</p>

十月
五四

桃	<p>牛若丸 (文唱)</p> <p>この歌曲を授けて、牛若丸と辨慶とが、五條の橋上で戦ひをした史實を愉快に歌ひて、勇壯なる感じを起させる。</p> <p>太田 三郎 (文唱)</p> <p>要旨 本歌曲を授け、讀本に關聯してその内容の徹底を計り、國民的童話の情趣を味はせ、勇ましさを感じを起させる。</p> <p>要項</p> <ol style="list-style-type: none"> 一口授聽唱法 1 1 i i 5 5 3 3 6 6 5 5 3 2 1 - . 0 右を豫備教練としてニ調ア音にて授ける。 普通音符のみなれば、附點音符の如く歌ひ誤るは不可である。 最初の一段は、元氣よく歌ふは可なれども、粗雑になるは惡し。 曲想は元氣よく、速度は遅くならぬやうに注意する。 <p>○基本練習</p> <p>音程練習 1 2 3 2 3 4 5 - 5 6 5 4 3 2 1 - 右をニ調又はホ調ア音にて練習させる。</p> <p>拍子練習 拍節に依りて、強弱部は拍手させる。</p> <p>○鑑賞資料</p> <p>夕 陽 け (大正唱)</p>
---	---

右の歌曲を聴かせて、夕やけの美しさを思ひ起させ、美的情操を養ふ。鑑賞後の整理は前例に依る。

君が代 (祝祭日唱)

要旨 本歌曲を授け、忠君愛國の至情を喚起し、敬虔なる心情を養ふ。

一 口授聴唱法

11 | 3 5 6 — | 2 7 6 5 | 6 5 3 2 — ||

右を豫備教練として、ハ調ラ音にて授ける。

三 息つぎの個所は、大體に於て二小節目毎に呼吸する。「さざれ石の…」は、連續して歌ふことが妥當のやうに思はれる。

四 儀式唱歌を歌ふ時の態度に就て説明する。

五 曲想は莊重に、速度は緩かになり勝ちであるから注意を要する。

○基本練習

池の鯉 (文唱1)

この歌曲を歌はしめて、池の鯉が遊泳する様を彷彿させ、愉快なる感起させしめる。但し、半音關係の個所を注意し、歌詞の反復する處は、その通りに表示する。

菊の花 (文唱1)

要旨 本歌曲を授け、菊の花の美觀を歌ひて、清く美しき情操を養ふ。

一 口授聴唱法

11 | 5 — 3 1 | 2 3 1 5 | 1 2 3 2 | 1 — 0 ||

右を豫備教練として、ハ調ラ音にて授ける。

三 この歌曲は半音の個所を特に注意する。

四 少しく困難なる音程があるから注意を要する。

五 曲想は軽く快活に、速度は中等の速さに歌はしむべきである。

○基本教練

拍子練習 四拍子の拍節法

四拍子の拍節法—右の手にて一は拍手、二は左上、三は右下、四は直上、—を示範して、一齊に練習する。

星 (文唱1)

要旨 本歌曲を歌はしめ、讀本の事項に聯絡してその徹底を計り、星の美しさを歌ひて純美なる情操を養ふ。

一 口授聴唱法

11 | 5 — 3 1 | 2 3 1 5 | 1 2 3 2 | 1 — 0 ||

右を豫備教練として、ハ調ラ音にて授ける。

三 この歌曲は半音の個所を特に注意する。

四 少しく困難なる音程があるから注意を要する。

五 曲想は軽く快活に、速度は中等の速さに歌はしむべきである。

○鑑賞資料

おもむつき (お山のお猿)

弘田龍太郎氏のこの童謡を聴かせ、快活なる心情を陶冶する。

要旨 本歌曲を歌はしめ、讀本の事項に聯絡してその徹底を計り、星の美しさを歌ひて純美なる情操を養ふ。

一口授聽唱法

11 | 5 1 3 5 | 2 3 1 - ||

- 右を豫備教練としてへ調ア音にて授ける。
- 三 對樂句になつて居る處は美しく歌ふ。
- 四 三和音式に構成された旋律は、音程に注意をする。
- 五 曲想は可愛らしく且つ美しく歌ふ。

○基本教練

音程練習 1 2 3 1 | 3 2 2 - | 3 5 3 1 | 2 3 1 - ||

右をへ調ア音にて齊唱せしめる。

○補充教材

樂隊あそび

(幼唱)

右の歌曲を歌はしめて、兒童の實際遊戲を叙述して、愉快の心情に導く。

太鼓笛等の模擬音は、發想的に唱謠せしめる。

木

の葉

(文唱)

本歌曲を授け、秋風に木の葉が散る様を歌ひて、快活なる情操を養ふ。

一口授聽唱法

十二月

一三

十一月

第三學期

教授豫定時數凡十八時

教 授 事 項

兔

要旨 本歌曲を歌はしめ、兔の形態及習性を知らせて、快活なる情を喚起する。

要項

(文唱)

尋常一學年第三學期

一口授聴唱法

11 | 1 2 3 4 | 5 - 0 | i - 7 6 | 5 - . | 4 - 3 2 | 1 - . 0 ||

右を豫備教練としてハ調ラ音にて授ける。

三 この歌曲は、半音の個所も特に注意して授ける。

四 第三段は、特に難音程が錯綜して居るから注意を要する。

五 曲想は快活にそして流暢に歌ふべきである。

○基本教練

聽音練習

教材「兎」の何れの部分が高く又低きか、何れの部分に長き音が在るかを聴分けさせる。

音程練習 1-3- | 5-i- | i-5- | 3-1- ||

右をハ調ラ音又はラにして授ける。

○補充教材

手毬と紙鳶

(新作唱)

この歌曲を歌はしめて、歌曲の内容より愉快なる感じを得させる。そして正月に於ける彼等の實際生活と結びつける。

紀

元 節

要旨

本歌曲を授け、儀式に備ふると同時に建國の由來を知らせ、國民的情操を陶冶する。

一口授聴唱法

二 五 月

七 六

花

咲 翁

(文唱一)

要旨

本歌曲を歌はしめ、童話的の教訓を與へ、快活なる情趣を喚起する。

要項

一口授聴唱法

11 | 3 5 6 5 | 5 - 0 | i 6 5 3 | 2 3 1 - ||

右を豫備教練としてニ調ラ音にて授ける。

三 歌詞にて歌ふ時、ダ行の各音を餘り耳立つやうに發音せぬやうにする。

四 附點音符の所在を明かに歌ひ分ける。
五 曲想は快活に、速度は餘り早くならぬやうに歌ふ。

○基本練習

音程練習 1 2 3 — | 1 3 5 — | 5 3 5 — | 5 1 5 — | 3 5 3 — | 5 3 1 — ||

右をハ調ラ音にて一小節宛歌はせる。

○補充教材

すゝめ

(幼唱初)

右の歌曲を授け、元氣を鼓舞し、快活なる心情を養ふ。
歌詞の「一二三」は、一音宛切りて元氣よく歌ふ。

飛

行機

(新作唱)

要旨 本歌曲を歌はしめ、兒童の愛好する飛行機に材を取りて、その内容よりして輕き滑
稽なる感じを起さしめる。

要項

一 口授聽唱法

11 | 1 5 1 3 | 2 — • 0 | 2 2 5 5 | 1 — • 0 ||

右を豫備教練として、調ア音にて授ける。

三 歌曲の終尾の方を幾分圓滑に歌ふやうに注意する。
四 第一歌詞と第二歌詞との對照の面白味を味はせる。

五 曲想は爽快に、速度は緩徐に流れぬやうに歌ふ。

○基本教練

發音練習 母音を種々に排列して、自由に發音し得るやうに練習する。

○鑑賞資料

椿のお家 (お山のお猿)

この童謡を聽かせ、椿の美しさと、兒童の心持とを展開して、美的情操を涵養する。

備考

- 一、第一學期は、全然歌詞を揭示することなく、單に教師の口誦にのみ依つて授ける。
- 二、第二學期に至つて初めて歌詞を板書して授ける。但し歌詞は、横書でも縦書でも宜しい。
- 三、第三學期には、調子拍子の初步觀念を養はうが爲に、極めて簡易な特種の符號を使用する。
- 四、本學年程度の兒童には、情操方面の陶冶を主とし、技能方面の陶冶を従とすべきである。
- 五、韻文歌曲及發音練習は、讀み方と密接に聯絡を保つて之を授け且つ練習をする事が得策であらう。
- 六、本學年は、半時限宛一週四回と豫定して教材を配當した。若し然らざる場合には、適宜に教材を加除しなくてはならない。そして復習を成可く多くするのが宜しい。

尋常第二學年

第一學期

教授豫定時數凡廿六時

教 授 事 項

櫻

(文唱二)

要旨 本歌曲を授け、陽春の候に野も山も美しく飾る櫻の美觀を歌ひ、純美なる情操を涵養する。

要項

- 一 口授聽唱法 歌詞を提示する。以下之に倣ふ。
- 11 | 3-21 | 5-0 | 1235 | 321- ||
- 右を發聲及音程練習として、音階圖を示しつゝ階名にて指唱せしむ。
- 三 櫻の歌詞を示して、その大意を説話す。
- 四 附點音符の配置に注意する。
- 五 曲想は快活に且つ美しく歌ふ。

○基本教練

音程練習及音階練習 | 123- | 321- | 135- | 531- ||

右を二調又はホ調階名にて歌はしめる。但し音階圖にて指す。

尋常第二學年第一學期

○鑑賞資料

靴が鳴る (お山のお猿)

この歌曲を兒童に聽かせて、うららかな春の野に遊ぶ樂しさを彷彿して、愉快なる氣分を起させる。

お玉じゃくし (新作唱)

要旨 本歌曲を歌はしめて、お玉じゃくしの形態の變化を知らしめ、動物に對する愛憐の情を養ふ。

要項

一 口授聽唱法

11 | 1-32 | 5565 | 67i6 | 5-0 |
| i653 | 5321 | 1-0 ||

右を音階圖及樂器等に據りて指唱せしむ。

三 高5・1音の並列に於て、調子が下降する事あり注意を要する。

四 お玉じゃくしの形態の變化を先づ面白く説話すれば興味が深し。

五 曲想は成可く輕快に歌ひ、速度は遅くならぬやうに注意する。

○基本教練

發聲練習 1-0 | 3-0 | 5-0 | 3-0 | 1-0 ||

右をト調又はホ調にて一音宛を美しくア音にて練習す。

○補充教材

駢つゝ (新作唱)

右の歌曲を授け、駢つゝは元氣と忍耐とを要することを知らせ、元氣を振ひ起させる。「一二三」は、元氣よく一音宛切りて歌はせる。

雲

雀 (文唱二)

要旨 本歌曲を授け、長閑な春の空に鳴く雲雀を歌ひて、優美なる感情を養ふ。

要項

一 口授聽唱法

11 | 365- | 253- | 3234 | 553- | 3321 | 231- ||

右を豫備教練及音程練習としてニ調ラ音にて練習する。

三 第三段の音程は稍々困難なれば、反復練習する。365- | 253- | の高度に注意する。

四 第一段のビィ〜の個所の附點音符に注意を拂ふ。

五 歌曲總體を成可く輕快に歌ひ、長閑なる氣分を表現する。

○基本練習

音階練習 123- | 321- | 1232 | 343- | 3432 | 321- ||

右を階名にて音階圖に據り指唱せしむ。

○鑑賞資料

六

一〇九八月

團栗ころく

(かはい唱)

右の唱歌を聴かしめ、團栗のころくする様を述べて、軽き滑稽味を味はせる。歌詞を提示して、大意を解説し置く。

浦島太郎

(文唱二)

要旨 本歌曲を歌はせて、浦島太郎の童話的事實に興味を持せ、慈悲應報等の諸徳を自得させる。

要項

一口授聽唱法

11 | 5̣ 1̣ 2̣ 3̣ | 5̣ 3̣ 1̣ 2̣ — | 5̣ 1̣ 3̣ 2̣ | 1̣ — 0̣ ||

右を音程及拍子の練習として授ける。但し二拍子の形式に變ずるも妨げぬ。

三 附點音符の在所及第三段第三小節を誤唱する恐あれば注意する。

四 歌詞にて歌ふ時、その詞の配置を歌ひ誤る事があるから適宜指導を要する。

五 流暢に且つ快活に歌はゞ、曲趣を發揮することが出来るだらう。

○基本教練

拍子練習 教材を利用して二拍子の拍法を復習し、交互に拍節を行はしめる。

○補充教材

なんだつけ

(新作唱)

この歌曲を補充教材として歌はしめ、慕と太郎との、飄逸なる行動に依り、輕き

七

一二月

蟬

要旨 本歌曲を授け、夏の暑さに堪へ得ぬ時、青葉蔭に鳴く蟬を歌ひて、快活なる感情を喚起する。

(幕唱二)

要項

一口授聽唱法

11 | 5̣ 5̣ ị 5̣ | 6̣ 6̣ 5̣ — | 6̣ 5̣ 6̣ ị | 2̣ ị ị — ||

右を音階圖に據りて、ハ調階名にて指唱せしめる。

三 スタッカットの音符は、最初普通に歌ひ、習熟したる時にスタッカントに歌はす。

四 蟬の鳴聲は、弱聲にて可愛らしく歌ふ。但し「つくく〜ひやうし」は「つくく〜ぼうし」に訂正する。

五 成可く流暢に且つ快活に歌ふを可とする。

○基本教練

音階練習 | 1 2 3 4 | 5 — 0 | 5 4 3 2 | 1 — 0 ||

右ハ階名にて、音階圖を指唱せしめる。ア音にても練習する。

○鑑賞資料

風車と水車

(中田氏曲)

風車と水車との歌詞の内容を説き、樂器の伴奏に依り範唱して聴かしめ、輕快な

る感じを起させる。

第二學期

教授豫定時數凡廿六時

教 授 事 項

月・週

九月
一 二 三

と ぼ (幼唱二)

要旨 本歌曲を授け、兒童の日常目撃する「とんぼ」の生活を歌ひて、美的快感を養ひ、兼てその形態及習性等に就ての智識を與へる。

要項

一 口授聽唱法

11 | 1-5 6 | 5-0 | 6-5 3 | 1-0 | 2-5 | 1-0 ||

右を豫備教練として、へ調階名にて授ける。

三 三和音的に進行する旋律は、各音を明確に歌ひ、拍子上に於ては、聯合十六分

音符を正しき時價を保ちて歌ふ。

四 詞は成可く發音を明確に且つ軽く歌ふ。

五 曲想は軽快に、速度は少しく早めて歌はば、面白味が増すであらう。

○基本教練

音階練習 1 2 3 4 | 5 6 5- | 5 6 5 4 | 3 2 1- ||

右を音階圖に依りて階名にて指唱せしめる。

聽音練習 歌曲を利用して高低強弱等の觀念を確實にする。

○補充教材

海 (幼唱二)

この歌曲を授け、雄大にして詩的である海を心から讚美せしめ、美感を涵養する。

兎の餅つき (新作唱)

要旨 本歌曲を歌はせ、月と兎の傳説に結び付けた兎の餅つきを歌ひて、愉快なる感情を喚起する。

要項

一 口授聽唱法

11 | 1 2 3 6 | 5 5 2- | 4 4 3 2 | 1-0 ||

右を豫備教練として、へ調階名にて歌はせる。

三 跳躍する音程及第四音等は正確に歌はす。

四 促音及撥音等は、極めて柔かく美しく發音し且つ歌ふ。

五 曲想は快活に、速度は餘り急速に流れぬやうに歌ふ。

○基本教練

十月
五 四

音階練習 1 2 3 4 | 5 6 5 - | 6 5 6 7 | i - 0 |

1 7 6 5 | 6 5 4 - | 3 4 3 2 | 1 - 0 ||

右を音階圖に據りて指唱せしめる。

○鑑賞資料

松 蟲 鈴 蟲

(山本唱)

この歌曲を讀本と聯絡させて兒童に聽かしめ、秋の夜の情趣を味はせる。

富 士 山

(文唱二)

要旨 本歌曲を授け、我が國唯一の秀峯たる富岳を歌ひ、雄大にして且つ優美なる感情を陶冶する。

要 項

一 口授聽唱法

11 | 5-3 1 | 6-5 0 | i-6 4 | 3-6 0 | 5 4 3 2 | 1-0 ||

右を豫備音程練習として、ハ調階名又はラ音にて練習する。

三 第二段第三小節及第三段第二小節にある連續八分音符は、最も圓滑に且つ正確に歌ふ。

四 各所にある長六度音程は、正確に歌はしめる。第四音4も確實なるを要する。

五 曲想は雄大に、速度は餘り早くなく歌ひ、落ちつきのある歌ひ方をする。

○基本練習

拍子練習 拍節法により交互に拍子を取らしめる。

音程練習 1 2 1 2 | 2 3 2 3 | 3 4 3 4 | 5 - . | 5 4 5 4 | 3 2 3 2 | 1 7 1 7 | 1 - 0 ||

右を樂器又は音階圖によりて練習する。

○鑑賞資料

お 祭

(大正少唱)

この歌曲を授け、村祭の賑かさを歌ひて、愉快なる情を起させる。歌詞中の「ドンドンヒヤララ…」は、美しく且つ軽く歌はしめる。

案 山 子

(文唱二)

要旨 本歌曲を授けて、蓑笠に身を固め、弓矢に虚勢を張る案山子を歌ひて、輕き滑稽味を味はせる。

要 項

一 口授聽唱法

11 | 5 5 6 6 5 5 3 | 1 2 3 0 | 2 2 3 4 | 5 5 1 0 ||

右を拍子練習として、ハ調階名にて練習する。

三 歌詞にて歌ふ時、「一本足の…」の「5」に特別にアクセントを付けるは悪し。

四 半音關係の個所は、音程を正確に歌ふ。

五 曲想は輕快に、速度は緩徐でなく歌ふ。

○基本教練

聽音練習 基音を示し、某音を表示して階名にて應答せしめる。

最初は一音より初め、二音又は三音に擴大する。

○鑑賞資料

夢まき (山本唱)

讀本の韻文に聯絡して、麥詩きをする田園に於ける晩秋の情景を味はせ、快活なる情操を涵養する。

紅

葉 (文唱二)

要旨 本歌曲を歌はせて、紅葉の美觀を彷彿して美的情操を養ふ。

要項 一口授聽唱法

1 3 2 1 2 3 | 5 6 5 3 2 | 1 7 1 3 2 | 1 - . 0 ||

右を拍子及音程練習としてへ調階名及ラ音にて授ける。

三 八分音符並列の個所は、拍子切迫し易ければ、特に注意を要する。

四 歌詞は少しく難解なれば、極めて平明に解説すべきである。

五 曲想は優美に且つ流暢に、速度は表示せられたる速さにて歌ふ。

○基本練習

音程練習 | 1 2 3 4 5 6 7 1 - | i 7 6 5 4 3 2 1 - ||

十二月

一三

一三

一月一日

要旨 本歌曲を授け、儀式に備へると同時に、元旦に君が代を壽ぎて、忠君愛國の至情を養ふ。

要項

一口授聽唱法

1 3 - 2 1 | 2 2 5 4 | 3 - . 0 | 3 5 4 2 | 1 - . 0 ||

右を音程練習として、樂器又は音階圖に依りて練習す。

三 歌詞は難解にして、加ふるに困難なる音程があるから、その大體に止める。

四 音程の 3 5 4 2 | が 3 5 3 2 | に誤唱せぬやう注意する。

五 曲想は莊重に歌ふべきである。

○基本教練

音程練習 | 5 6 5 6 | 7 1 7 1 | 7 6 7 6 | 5 4 5 4 | 3 2 3 2 | 1 - . 0 ||

右の二度音程を最初は樂器にて練習し、後に音階圖によりて指唱せしめる。

○鑑賞資料

ちんちん千鳥

(赤い鳥)

千鳥の寒き夜に鳴く聲が、身に泌み渡る情景を展開して、静寂の感を起さしめる。

第三學期

教授豫定時數凡十八時

教 授 事 項

月・週

一

二

三

雲

要旨 本歌曲を授け、満目銀世界と化し、枯木に銀の花を咲かす美觀を歌ひて、快美の感を養成する。

要項

一口授聽唱法

11 | 5-6- | 5-3 0 | 3-4- | 3-1 0 | 6-5 3 |

| 5-3 1 | 3-2 2 | 1-0 0 ||

右を音程及拍子の練習として、へ調階名にて練習する。

三 附點音符の跳躍的旋律の拍子に注意する。

四 「こんこ」の撥音、「ふつては…」の促音を、共に流暢に歌ふ。

五 曲想は輕快に、速度は少し早く歌ふ。

○基本練習

音階練習 | 1+3- | 5-i- | 5-3- | 1-0 0 ||

○補充教材

第二學期に授けたる音階に右の三和音を附加して練習する。

時計の歌

(文唱二)

この歌曲を授け、四六時中休むことなく活動する時計に學びて、勤勉努力の風を助長する。

二 月

五 四

那須與一

(文唱二)

要旨 本歌曲を授け、那須與一の詩的光景を展開して壯快なる心情を陶冶する。

要項

一口授聽唱法

11 | 1 3 5- | 6 6 5- | 4 3 2 1 | 2 2 5- | 4 3 2 5 | 1-0 0 ||

右を音程練習として、へ調階名にて授ける。

三 各所に第四音4音があるから注意をする。

四 單純音符の處を附點音符と混同するから注意する。

五 曲想は勇壯に、速度は緩徐に流れぬやうに歌ふ。

○基本教練

尋常二學年第三學期

拍子練習 那須與一の歌曲を利用し、四拍子の打節及呼節等を授ける。

○鑑賞資料

電話 (かはら唱)

この唱歌を聴かして、日常の實際生活と結びつけ、快活なる心情を養ふ。

荷

車 (新作唱)

要旨 本歌曲を授けて、愛他心を涵養し、快活の氣象に導く。

要項

一口授聽唱法

1 | 171231 | 2-0 | 11232 | 1-0 ||

右を拍子練習として、調階名又はタ音にて授ける。

三 第一段第三小節の拍子が少しく混亂する恐があるから注意する。

四 「エンサカホイ」の掛聲は上品に軽く歌ふ。

五 曲想は快活に、拍子はだれないやうに歌ふべきである。

○基本教練

音程練習 | 123- | 34343- | 345- | 56565- |

| 176- | 65654- | 432- | 32321- ||

右を樂器に合はせ、階名にて練習する。

○補充教材

別

れの歌 (富校選曲)

梅 ぼに 螢 (文唱二)

梅咲く枝を尋ねて來なく螢の、長閑な情趣を味はせて、優美なる心情を養ふ。
歌詞中の「ホーホケキョウ」は、軽く美しく歌ふ。

要旨 本歌曲を授け、卒業式の場合に惜別の真情を表はさしめる。

要項

一口授聽唱法

二 この曲は、「螢の光」の曲を採りて、當校が歌詞を作製して附曲したものである。

三 最初はホ調で授け、習熟したる後に、調に移調する。

四 弱起りの拍子であるから、歌ひ初めは凡て弱聲に歌はせ、次の音が強聲になる。

五 曲想は真心を込め、速度は中等の速さにて流暢に歌ふ。

○基本教練

音程練習及音階練習

| 1223 | 3445 | 5667 | 7i-0 | i776 | 6554 | 4332 | 21-0 ||

右を階名にて、樂器又は音階圖に依り歌はしむ。

○鑑賞資料

雛まつり (山本唱)

この歌曲を聴かせて、雛まつりの楽しさを味ひ、快活優美なる心情を陶冶する。

備

考

- 一、本學年も第一學年と略々同様の目的及方法の下に教材を取扱つて宜し。
- 二、基本練習に關する方面は、前學年よりも稍々多く之を課し、技術を確實にすべきである。
- 三、歌詞は、成可く筆記帳などに筆記をさせないで、兒童の確實なる暗誦に俟つ方が効果が多し。
- 四、正教材を捨て、補充教材を取ることは、教授者の任意であるけれども、成可く之は避けられた方が可いと思ふ。特に高學年に於ては嚴守すべきである。
- 五、教授時數は、第一學年と同一に豫定したから、教材の配當數も略々同數である。若し然らざる場合には、矢張り加除することが必要である。

尋常第三學年

第一學期

(教授豫定時數凡廿六時)

教 授 事 項

森の樂隊 (尋唱三)

要旨 本歌曲を授け、陽春の候に森に囀づる小鳥の樂しげなる様を歌ひて、快活なる心情を陶冶する。

要項

一 口授聽唱法 (歌詞を提示する)

11 | 5-6 1 | 2-0 0 | 5-4 3 | 2-0 0 |

| 5 6 5 3 | 2-0 3 2 | 1-0 0 ||

右を音程及拍子練習として、調階名にて授ける。

- 三 鳥の鳴き聲を摸したる處の旋律は、誤唱し易ければ注意を要する。
- 四 歌詞の「ビィビィ…」以下は、極めて柔かく且つ軽く歌ふべきである。
- 五 曲想は輕快に、速度は遅くなく歌ふ。

○基本教練

尋常三學年第一學期

五

五月

かがやけ光

(文唱三)

要旨 本歌曲を授け、金鶏動章の由来を知らしめ、快活なる心情を陶冶する。

要項

一口授聴唱法

11 | 3 4 3 2 | 1-5 0 | 5-3 1 | 5-2 0 | 2 5 3 1 | 2 3 1 0 ||

右を音程練習としてト調階名にて授ける。

三 歌詞中の「さんいろのとび」につぼん「ぐんじん」等の歌ひ方に注意する。

四 「ピカピカ」キラキラ等は軽く且つ美しく歌ふ。

五 曲想は元氣よく、速度を嚴守して歌ふ。

○基本教練

音程練習 | 1 2 3 1 | 3-0 | 2 3 4 2 | 4-0 | 3 4 5 3 | 5-0 | 5 3 2 3 | 1-0 ||

右を三度音程練習として、音階圖に據りて指唱せしめる。

七 六

茶

要旨 本歌曲を授け、弱聲部起りの歌ひ方に習熟せしめ、茶摘の野趣を味はせて爽快なる感じを興へる。

要項

一口授聴唱法

11 | 0 5 1 2 | 3-0 | 0 3 3 5 | 3-0 |

| 0 5 5 3 | 2 2 1 6 | 5 1 2 3 | 1-0 ||

右を拍子練習として、ハ調階名及タ音にて授ける。

三 弱聲部起りの拍子が少しく混乱する恐あれば注意する。

四 民謡を読み入れたる樂句は、特に流暢に歌ふ。

五 曲想はのんびりとしたる歌ひ方をする。

○基本教練

六

一〇九八月

○拍子練習 1・234 | 5-・0 | 6.7i2 | i-・0 | 1.765 | 3-・0 | 3.212 | 1-・0 ||

右の楽譜の歌ひ方に依りて、一拍半と半拍との拍子の觀念を確實にする。

○補充教材

日本三景 (唱教二)

この歌曲を授け、讀本の事項と聯絡して、三景の美しさを心ゆくまで歌ひ、美的快感を喚起する。

親

つばめ (新作唱)

要旨 本歌曲を授け、親つばめがその子を愛する様を叙べて、親の恩を知らしめ、快活なる情操を養ふ。

一 口授聽唱法

二 1-32 | 1765- | 3-50 | 2310 ||

右を音程練習として、ハ調ラ音及階名にて授ける。

三 各所に在る第七音7音と「にしひがし」の間に挿入せられたる四分休符を明確に歌ふ。

四 第三段の八分音符並列の旋律は、速度が早くならぬやう注意する。

五 曲想は極めて温情味のあるやうに歌ふ。

○基本教練

音程練習 5675 | 7-・0 | 67i6 | i-・0 |

176i | 6-・0 | 7657 | 5-・0 ||

右の形式の三度音程を、音階圖に依りて指唱せしむ。

○鑑賞資料

蜜 蜂 (大正唱)

この歌曲を聽かせて、蜜蜂の形態習性等を知せ、快活なる心情を陶冶する。

汽 車 (文唱三)

要旨 本歌曲を歌はしめて、汽車の旅の愉快さを知らせ、壯快なる感じを與へる。

要項

一 口授聽唱法

二 3-25 | 343- | 1712 | 3-・0 | 5-65 | 1-・0 ||

右を音程練習として、ト調階名にて歌はせる。

三 單純音符の個所を往々にして附點音符に歌ひ認ることあり。注意を要する。

四 523... を 513... と音程を誤唱するから指導すべきである。

五 曲想は壯快に、速度は表示せられたるを嚴守すべきである。

七

一二月

○基本教練
 聽音練習 三音繼續の音を經時的に演奏して聽き分けしめる。
 音階練習 1-23 | 4567 | i-76 | 5432 | 1-0 ||
 右の形式を緩急を附して練習する。

○補充教材
 蠶 (文唱四)
 この歌曲を授け、蠶を飼育して繭となるまでの苦心と努力とを歌ひ、産業に親みを起させ、快活の感を養ふ。

第二學期

教授豫定時數凡廿六時

教授事項

月・週
九月
一
二
三

蟲のこゑ (文唱三)

要旨 本歌曲を授け、千草八千草咲き亂る、秋の野に、節面白く鳴いて居る蟲の聲の愉快なる光景を歌ひて、美的快感を起さしめる。

要項 一口授聽唱法

11 | 5-36 | 5-30 | i-76 | 5-0 | 6-5- | 1-0 ||

右を音程練習として、ニ調階名にて指唱せしめる。

- 三 類似旋律は、正確に歌ひ分ける。
- 四 蟲の聲は、凡て弱聲にて美しく歌ふ。
- 五 曲想は優美に、速度は遅くならぬやうに歌ふべきである。

○基本教練

音程練習 1353 | 422- | 3564 | 5-0 | i-64 | 565- | 5342 | 1-0 ||

右の應用三度音程を階名にて練習する。
 但し最初は樂器にて、最後に音階圖にて指唱せしめる。

○鑑賞資料

蟲と月 (山本唱)
 正教材に因みて、この歌曲を鑑賞させ、秋の野に鳴く蟲の聲、野末より昇る月蔭、各々風情ある様を味はしめる。

村祭 (文唱三)

要旨 本歌曲を歌はしめ、豊年を祝福する村祭の光景を叙べて、愉快の感を喚起する。

要項 一口授聽唱法

11 | 5642 | 1-0 | 2254 | 321- | 5135 | 3131 | 5-10 ||

右を音程練習として、ト調階名にて練習す。

十月
五 四

但し拍手練習として、楽譜の如き拍子に訂正して行ふも可なり。

三 「ドン／＼ヒャララ…」は、餘り力を入れず、軽く歌ふが宜し。但し三和音の高度に注意を要する。

四 一音符に二音を配置したるは、音符を等分して歌ふ。

五 曲想は樂しき氣分を發揮する。

○基本教練

音階練習 1 1 2 2 | 3 3 4 4 | 5 5 6 6 | 7 7 1 1 |

1 1 7 7 | 6 6 5 5 | 4 4 3 3 | 2 2 1 1 ||

右の形式の音階を階名にて授ける。但し同形式にて三和音をも附加する。

○補充教材

おもひやり (文唱三)

この歌曲を授け、讀本及修身に聯絡して愛憐同情の念を養ひ、眞摯の態度に導く。

天長節

要旨 本歌曲を授け、儀式に備ひ、至尊の天長を祈り、國民としての至誠を現はすにある。

要項

一口授聽唱法

1 1 | 3-2 1 | 4-3 0 | 4-3 6 | 5 5 1 4 | 3 3 2 2 | 1-0 ||

雁

要旨 本歌曲を授け、大空高く連れ立ちて渡る雁の群を歌ひて、美的快感を起さしめる。

要項

一口授聽唱法

1 1 | 3-2 1 | 2 5 5- | 3-4 5 | 6-5 4 | 3-2 2 | 1-0 ||

右を音程練習として、音階圖を示し、調階名にて練習する。

三 高い方の音は成可く美しく歌はせる。

右を豫備教練として、ニ調階名にて授ける。
三 この歌曲は第四音4音が非常に多ければ、この音を正確に歌ふ。
四 詞及曲、共にこの程度の兒童には困難なれば、その大體に止め、完成は他日に譲る。

五 曲想は莊重に、速度は緩徐にならぬやうに歌ふ。

○基本教練

拍子練習 天長節の歌曲を利用して四拍子の拍節法を行ふ。

尚呼節法として一二三等の呼び方をも授ける。

○鑑賞資料

赤とんぼ (大正唱)

秋晴れの日に赤とんぼがそこに群れ飛ぶ様を聽かせて、快活なる心情を養ふ。

(文唱三)

四 この歌曲は、稍々もすれば重苦しくなるから注意を要する。

五 曲想は優美に、速度は遅くならぬやうに歌ふべきである。

○基本教練

音程練習 3 1 3 1 | 3 5 5 - | 4 2 2 - | 3 1 1 - | 4 - 6 - | 5 3 3 - | 2 3 1 - ||

三度の應用音程を階名にて練習する。但し音階圖に據りて視唱せしめる。

○補充教材

運動會 (幼唱二)

この歌曲を季節に因みて歌はしめ、運動會の勇ましく且つ樂しき光景を彷彿させ、壯快なる感を起さしめる。

越

(文唱三)

要旨 本歌曲を授け、越の逆落の様を歌ひて、勇壯快活なる氣分を喚起する。

要項

一口授聽唱法

1 | 3 5 2 3 | 1 - 2 0 | 1 - 6 1 | 2 - 5 0 |

5 - 3 1 | 5 - 2 3 | 1 - . 0 ||

右を音程練習として、ハ調階名又はラ音にて授ける。

三 歌詞中の「へいけのちゃんやは...」及「いちもん」の歌ひ方を誤らぬやうに注意する。

- 四 旋律の音程中 5 2 が 6 2 と誤唱することがあるから注意する。
 - 五 曲想は勇壯に、速度は表示せられたるを正しく守る。
- 基本教練
- 拍子練習 一拍及半拍の休止に就て説明し、歌曲唱誦の實際に活用する。
- 聽音練習 三音繼續のものを經時的に演奏して聴き分けしむ。
- 鑑賞資料
- 秋の風 (新作唱)
- この歌曲を聴かせて、木の葉及月が秋の冷い風の爲に吹き散らされはしないかと心配する様をまのあたりに彷彿せしめて、美的快感を起さしめる。

十二月

港

(新教唱)

要旨 本歌曲を授け、港の繁榮する光景を歌ひ、海事思想を養ひつゝ、快活なる感情を陶冶する。

要項

一口授聽唱法

1 | 1 2 1 6 | 5 6 5 3 | 3 4 3 2 | 1 - . 0 ||

右を音程及拍子の練習として、ハ調階名にて練習す。但し最後に三拍子に形式を變へる。

三 三拍子曲を授くるは本教材が最初なれば、三拍子の大體を説明する。

四 歌詞は少々程度が高ければ、大意を解説するに止める。
五 曲想は快活に、速度は少々早く歌ふ。

○基本教練

音階練習 1 2 3 4 | 5 6 7 i | 7 6 5 4 | 3 2 1 - | 1 3 5 i | 5 3 1 - ||

右の如き三拍子の音階を階名にて練習する。但し拍子に注意をする。

○補充教材

冬の夜 (文唱三)

この歌曲を授け、田舎の冬の夜の情景を歌ひて、快活にして純朴なる氣風を玩味せしめる。

第三學期

教授豫定時數凡十八時

教授事項

豊臣秀吉 (文唱三)

要旨 本歌曲を授け、豊臣秀吉の人物及偉業を兒童の顔前に展開して、勇壯なる氣象を養ふ。

一 口授聽唱法

月・週

一 月
二 月
三 月

1 | 1 2 3 4 | 6-5 0 | 3 5 3 1 | 2 3 1 0 | 3 4 5 3 | 2 5 1 - ||

右を音程教練として、音階圖に據り視唱せしめる。

三 特別の個所に、特別にアクセントが附され易ければ注意する。

四 最後の五段目は、特別に強く力を入れて壯大に歌ふ。

五 曲想は壯大に、速度は早くなく落着きを以て歌ふ。

○基本教練

音程練習 1-6- | 5 6 5- | 6-1 6 | 5 3 5- | 4-2 3 | 1-0 ||

右の應用三度音程を階名にて歌はしめる。その他發聲發音練習は前學期に準ずる。

○鑑賞資料

電車 (葛原唱)

兒童が日常遊戲にさへも摸倣する電車の歌を聽かせ、快活にして元氣に満ちたる氣分に導く。

○樂典大要

一 樂譜の意義及價值を説く。

二 完全に唱誦するに必要である。

三 樂譜は、唱誦を最も完全に表はす。

四 自力にて唱歌せんとすれば、樂譜を知らねばならぬ。

五 後日の爲に記録として残し得る。

六 樂譜を知らうとすれば、樂典を知らねばならぬ。

七 音には長短高低があることを説明する。

二
五 四 月

雪 合 戦 (奉唱三)

要旨 本歌曲を歌はしめ、雪合戦の壯快さを味はせて、快活なる氣分を養ふ。

要項 一口授聽唱法

一 一口授聽唱法

二 5 5 1 1 | 3 3 2 1 | 5 - 3 | 2 1 1 - ||

右を拍子練習として、初め四拍子にて歌はせ、次に二拍子に變更する。

三 各段末の四分音符は、稍々一拍より短く歌ひ切りて休止をとる。

四 降雪の機會を見て、この歌曲を授けたならば興味があるであらう。

五 曲想は快活に、速度は四分音符百十二位の速さに歌ふ。

○基本教練

聽音練習 5 5 3 - | 2 1 2 - | 3 5 6 - |

右の如き三音繼續のものを、歌曲中より抜きて聽音せしむ。

○補充教材

夜の 道 (新作唱)

右の歌曲を補充教材として歌はしめ、冬の夜の街頭の閑寂さを味はせ、美的快感を喚起する。

○樂典大要

譜表に就て大體の觀念を與へる。

七 六

達 磨 さん (新作唱)

要旨 本歌曲を授けて、達磨さんの珍奇な風體と、解脱したる面貌とに依つて起る輕き諧謔味を玩味させる。

要項

一口授聽唱法

11 3 6 5 3 | 5 3 2 1 | 6 1 5 - | 2 - 3 1 |

7 6 5 - | 3 4 2 3 | 1 - . 0 ||

右を音程練習として、へ調階名にて歌はせる。拍子練習として、歌曲の節奏の如く變更するも可なり。

三 俳味を帯びたる歌詞を平明に解説する。

四 音程が少しく困難なる處あれば示範を多くする。

五 曲想は輕快に、速度は成可く急速に歌ふ。

○基本教練

拍子練習 四拍子の拍節法を復習し、一齊に練習したる後、歌曲に就て拍子を取らしめる。

○鑑賞資料

日本武尊

(山本唱)

この歌曲を聴かせ、日本武尊の勇武にほはせし事實を知らしめ、その御事績を欽慕せしめると同時に勇壯の感を養ふ。

○樂典大要

ト字記號の形狀及効用に就て説明する。
音符に就て形狀名稱及時價を概説する。
(1) 二分音符、四分音符、八分音符。
(2) 音符を譜表に配記して實地練習を行ふ。

三

九 八 月

川 中 島

(文唱三)

要旨 本歌曲を授け、讀本に聯絡して川中島の古戰場を歌ひ、勇壯なる氣分を喚起する。

要項

一 口授聽唱法

11 | 5̣.5̣12 | 3-0 | 4321 | 7̣.6̣5- | 5532 | 1210 ||

右を音程練習として、ト調階名にて二小節宛を歌はしめる。

三 歌詞は、この學年程度に少しく難解なれば、力めて平易に解説して大意を知らしめる。

四 各段末尾の四分音符は、一拍にて歌ひ切り、一拍を休止することを注意する。

五 曲想は勇壯に、速度は緩やかにならぬやうに注意する。

○基本教練

音程練習 | 135- | 423- | 356- | 165- | 3542 | 1-0 ||

右を三度音程の應用として、階名にて歌はしめる、但し音階圖に據る。

○樂典大要

休符の形狀名稱及時價を説明する。

(1) 四分休符。

(2) 音符と比較して説明する。

備考

- 一、第二學年に準じて各種の基本練習を課する。但しその分量は稍々増加したから、その心して兒童の實力を養ふことに力める。
- 二、第三學期から樂典大要を極めて概括的に授け、第四學年より樂譜視唱に入るべき準備をする。
- 三、授けたる樂典事項を應用して讀譜練習をなし、讀譜力を養ふことに力を注ぐ。
- 四、唱歌筆記帳は、所持せしめないで、樂典要項のみを雜記帳に筆記させる。
- 五、鑑賞資料は、その程度を進めて、曲趣に就て充分に味はせるやうに注意する。

尋常第四學年

第一學期

教授豫定時數凡廿四時

月・週	四月	三月	二月	一月
教 授 事 項	<p>春の小川 (文唱四)</p> <p>要旨 本歌曲を授け、四分音符のみにて構成せるハ長調曲の視唱に習熟せしめ、野邊に流れる小川を背景として、陽春の長閑けさを歌ひ、愉快なる感情を養ふ。</p> <p>要項</p> <p>一 樂譜視唱法</p> <p>11 3 5 6 5 3 5 i - i i 7 6 5 5 3 0 </p> <p>2 3 2 5 6 6 5 3 2 3 1 0 </p> <p>右を樂譜視唱の豫備練習として、樂譜に表示し、階名にて視唱せしめる。</p> <p>三 歌曲と樂典事項とを結合して、讀譜練習を數回行ふ。</p> <p>四 第三段の音程は、特に示範をなし正確を期する。歌詞は發音を明確にし且つ軽く歌ふ。</p>			

五 曲想は、輕快に且つ美しく、速度は緩徐に流れぬやうに歌ふ。

○基本練習

1-0 | 3-0 | 5-0 | 1-0 |
 6-0 | 4-0 | 2-0 | 1-0 ||

右の三和音に依り、母音のアオエ等を發音して練習する。

○鑑賞資料

春の歌 (新歌唱)

右の歌曲を季節に因みて聴かしめ、春の長閑な野邊の様を兒童の眼前に浮べ、快活純美なる感情を喚起する。

○樂典大要

小節に就て大體の意味を説明する。

(イ) 單縱線の効用。

(ロ) 復縱線の効用。

拍子の意義及記號に就て説く。

(イ) 四分の四拍子の意義。

(ロ) 記號の形狀。

要旨 本歌曲を授け、八分音符混用の歌ひ方に習熟させ、我が國旗の美しさと尊さを歌ひて愛國の情を喚起する。

要項

一 樂譜視唱法

1 | 3 5 2 — | 3 5 6 — | 5 6 i 6 | 6 5 i — | 6 5 3 2 | 1 — 0 ||

右を拍子及音程練習として、樂譜を提示して視唱せしむ。三拍子の形式に訂正するは後に行ふ。

三 弱聲部起りの變格小節に就ては、樂譜上にて説明し會得せしむ。

四 歌詞は少しく難解なれば、その大意の解説に止める。

五 曲想は勇ましく、速度は中等の速さに歌ふ。

○基本練習

音程練習 | 1 2 3 4 | 5 6 7 i | 2 3 2 1 | 7 6 5 4 | 3 2 1 7 | 1 — 0 ||

右の形式の音階を板書して、視唱練習を行ふ。但し讀譜練習を念入りに課す。

○補充教材

盲と聾 (新歌唱)

右の歌曲を授け、八分音符に依りて構成せられたる歌曲の歌ひ方に習熟せしめ、盲と聾とが意表に出づる言動に依り、輕き諧謔味を味はせる。

○樂典大要

拍子に就て説明する。

(イ) 三拍子の意義。
(ロ) 四分の三拍子の記號。
呼吸符の名稱形狀及効用。

かくれんぼう (新作唱)

要旨 本歌曲を授け、附點四分音符の歌ひ方に習熟せしめ、かくれんぼうの情景を敍べて實際生活と結合し、愉快の情を喚起する。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 1-23 | 2-55 | 6650 | 4-33 |
5-i | i | 2232 | i-0 ||

右を音程練習として、樂譜に表示し視唱せしめる。

三 樂典上の新事項、附點四分音符及十六分音符等を實地と結合して授ける。

四 歌詞にて歌ふ時、その内容の意味に應じて發想的唱法を行はゞ、興趣が湧くであらう。

五 曲想は愉快に、速度は中等に歌ふ。

○基本練習

音程練習 | 1234 | 1-0 | 2345 | 2-0 |

夏は來ぬ (教育唱)

要旨 本歌曲を授け、細かく移動せる旋律の歌ひ方に習熟せしめ、初夏の光景を歌ひて、その情趣を味はせ、美的情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 3455 | 6i52 | i65- | 6225 |

○鑑賞資料

田舎の四季 (文唱四)

右の四度音程形式を音階圖に依りて指唱せしめる。但し下行形式も隨時に授くるものとす。

| 3456 | 3-0 | 4567 | 4-0 ||

右の歌曲を鑑賞させ、田園生活は、四季それ々に特種の風情と興趣とがあることを知らせ、純美なる感情を養ふ。

○樂典大要

附點音符に就て授ける。

(イ) 附點四分音符の形狀名稱及時價。

(ロ) 附點八分音符の形狀名稱及時價。

八分休符の形狀名稱及時價。

3 1 2 — | 5 i 3 2 | 1 — 0 ||

右を音程練習として、樂譜に據り視唱せしめる。

三 新出音符の附點二分音符及末段の弱聲部に當る八分音符の實地の歌ひ方を徹底する。

四 錯綜せる音程の部分は、曖昧に陥り易ければ注意して練習する。

五 曲想は輕快に、速度は少しく急速に歌はせ、情趣豊かなものがある。

○基本練習

拍子練習 四拍子の拍法を詳細に復習し、歌曲の實際に就て拍子を取らしめる。

聽音練習 四音乃至五音連續の旋律を聽き取らしめる。

○補充教材

藤の花 (文唱四)

右の歌曲を口授して、四拍子曲の爽快なる歌ひ方に習熟させ、藤の花の美觀を歌ひて、それ等の美的情操を養ふ。

○樂典大要

附點音符の新事項を授ける。

1) 附點二分音符の形狀名稱及時價。

(2) 附點四分音符と八分音符との中間句讀。

強弱記號の形狀名稱及効用

f p mf

會我兄弟 (文唱四)

要旨 本歌曲を授け、表示せられたる節奏の歌ひ方を會得させ、會我兄弟の苦心を偲ばしめて、勇壯にして快活なる心情を涵養する。

要項

一 口授聽唱法

1 | 1. 1 1 1 | 1. 1 1 1 0 | 3. 3 3 3 | 3. 3 3 3 0 |

1 — 6 — | 5 — 3 — | 3 — 2. 2 | 1 — 0 ||

右の節奏形式を樂譜に表示して、豫備練習とする。

三 この曲は、勇壯に歌はうとして、粗笨なる歌ひ方に陥り易ければ注意する。

四 歌詞は少しく難解なれば、力めて平明に解説する。

五 曲想は勇壯に、速度は表記せられたる通りに歌ふ。

○基本教練

音程練習 1 4 1 — | 2 5 2 — | 3 6 3 — | 4 7 4 — |

5 i 5 — | 6 2 6 — | 7 3 7 — | i — 0 ||

右の四度音程を同様の形式に於て上下行共に授く。但し音階圖に依りて視唱せしめる。

○鑑賞資料

加藤清正 (郷土唱歌)

右歌曲を讀本に關連して聽かしめ、加藤清正の優しさと勇しさとを知らしめ、快活なる心情を陶冶する。

第二學期

教授總定時數凡廿六時

月・週

教 授 事 項

九 月

三 二 一 月

漁

船 (文唱四)

本歌曲を授け、十六分音符並列の類形旋律の歌ひ方に習熟させ、讀本所載の海の生物に聯絡して産業に親みの情を起させ、快活なる情操を養ふ。

一 樂譜視唱法 但し便宜の爲にハ長調に移調して記譜する。

二 2 3 3 2 0 | 2 2 2 1 0 | 2 3 3 1 0 ||

右の類形旋律に就ての歌ひ分けを明確にする。

三 掛け聲の個所は、特に力が入り易く、一種の悪い歌ひ癖が附き易ければ注意する。

四 歌詞の關係からして、歌ひ方に依つては下品に聽えるから特に注意を要する。

五 曲想は元氣よく、速度は表示せられたるを守り、重苦しくならぬやうに歌ふ。

○基本教練

音階練習 1 2 2 3 | 3 4 4 5 | 5 6 6 7 | 7 1-0 |

1 7 7 6 | 6 5 5 4 | 4 3 3 2 | 2 1-0 ||

右の音階を階名又はラ音にて歌ふ。

○補充教材

明日は日曜

(中學唱)

右の歌曲を授け、ハ長調曲の歌ひ方に習熟させ、一週間の勤めを終りて日曜を樂む愉快さを歌ひて、快活元氣の心情に導く。

○樂典大要

附點八分音符及十六分音符の形狀名稱及時價。

勅 語 奉 答

本歌曲を授け、一は儀式に備ひ、兼ねて勅語に對する御趣旨に奉答する誠意と實踐とを表はす。

一 樂譜視唱法 但しハ長調に移調する。

1 1-2 3 | 6-5 2 | 2 5 7 6 | 5-0 | 2 3 4 5 6 7 | 1-0 ||

十 月
五 四 月

右をハ調階名にて音階圖に依りて指唱せしめる。

三 歌詞はこの學年の兒童には少しく難解なれば、その大意を説話する。

四 中間の速度の變る個所は、明瞭に速度を改める、末尾の *rit.* になる處は、明確に拍子を漸延すべきである。

五 曲想は莊重に、速度は明示せられたる通りを守り、緩徐に失せぬやうに歌ふ。

○基本教練

音程練習 1 2 3 4 1 | 4 6 5 — | 2 3 4 5 2 | 5 i 6 — | 3 4 5 6 3 | 6 2 i — ||

右の形式の四度音程を樂譜に據りて視唱練習する。但し下行形式をも授ける。

○鑑賞資料

たけがかり (文唱四)

右の歌曲を聽かせ、秋の氣清き山にたけがかりすることの愉快さを彷彿せしめて、愉快の情を喚起する。

○樂典大要

延長記號の名稱形狀及効用。

速度記號に就てその實際を説く。

タイの名稱形狀効用。

山

要旨

本歌曲を歌はしめ、弱聲部起りの四拍子曲の歌ひ方を授け、満山皆紅葉せる美觀を求めて山登りする楽しさを歌ひ、爽快なる氣分を起さしめる。

要項

一 樂譜視唱法

1 1 | 5 | i . 5 5 5 | 6 5 5 — | 5 5 6 7 | i — 0 |
3 | 2 . 3 2 . 3 | 2 2 3 2 | i — . 0 ||

右を拍子練習として、樂譜により視唱せしめる。

三 樂典の新事項として反復記號を授ける。

四 この歌曲は、重苦しき歌ひ方に陥り勝ちなれば、なる可く軽く美しく歌ふ。曲想は爽快に、速度は緩徐に過ぎぬやうに歌ふ。

○基本練習

拍子練習 弱聲部起りの拍法に就て説明し、一齊に鉛筆をパートナーに代用して拍子を取らしむ。

聽音練習 本歌曲の或部分を取りて之を演奏し、聽取らしめたる後に口誦せしむ。

○補充教材

菊 (幼唱四)

この歌曲を聽かしめ、霜に香る菊の花の美しさを歌ひて、美的快感を喚起する。

○樂典大要

反復記號の名稱形狀及効用。

弱聲部起りの拍子に就て説明する。

八 廣瀬中佐

(文唱四)

要旨 本歌曲を授け、本曲特有の節奏の歌ひ方を會得せしめ、廣瀬中佐の悲壯なる最後を歌ひて、忠君愛國の念を養ひ、悲壯なる情を喚起する。

要項

一 口授聽唱法

11 | 5 | 1-171 | 2-212 | 3-323 |
| 4.432 | 1-0 ||

右を音程及拍子練習として、音階圖に據りて視唱せしめる。

三 歌詞が稍々歌ひ苦き處があるから、圓滑に發音し且つ歌ふ。

四 並列八分音符の個所は、稍々拍子が切迫し易ければ注意を要する。

五 曲想は悲壯に、速度は表示せられたるを嚴守して、急速に流れぬやうに歌ふ。

○基本教練

音階練習 | 1 2 3 4 5 6 7 | i 2 3 - | 3 2 i 1 6 5 4 | 3 2 1 - ||

右の音階を樂譜に表示し、階名又はア音にて練習する。

○補充教材

近眼のしんじり (新作唱)

右の歌曲を授け、近眼の者が思はぬ滑稽を演出する面白さを歌ひて、輕き滑稽味を味はせ、快活なる情操を陶冶する。

一〇 山

里 (教育唱)

要旨 本歌曲を授け、附點八分音符及十六分音符と並列八分音符との歌ひ分けを會得せしめ、秋深き山里の寂しき様を味はせる。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 5 6 5 3 | 3 2 1 - | i 2 3 i | 2 - i 0 ||

右を豫備教練として、樂譜にて表示し視唱せしめる。但しオクターヴを主として練習する。

三 高音の部分を輕く美しく歌ふ。叫聲を發するは惡ろし。

四 歌詞二章中、秋季の章を主として唱謠せしめる。

五 曲想は寂しき感じを以て、速度は中等の速さに歌ふ。

○基本教練

音階練習 | 5 2 5 - | 6 3 6 - | 7 4 7 - | i 5 i - | 2 6 2 - | 3 2 i - ||

右の四度音程を上下行形式ともに練習する。

○鑑賞資料

叱られて

(濱千鳥)

この童謡を鑑賞せしめ、自己の輕卒に依りて思はぬ失策をなし、叱られたる時の悲しき心情を、その内容より窺知せしめて、道德的反省を與へる。

十二月

祝日 (唱歌1)

要旨 本歌曲を授け、長調樂譜の視唱に堪能ならしめ、祝日の様を愉快に歌ひて、快活なる情を養ふ。

要項 一 樂譜視唱法

11 | 1 3 5 6 | 5 5 3 — | 2 3 4 6 | 5 — 0 |
5 1 3 1 | 2 2 5 — | 5 1 3 2 | 1 — 0 ||

右を高音發聲の練習として、音階圖に據りて指唱せしめる。

三 稍々困難なる音程錯綜して歌ひ苦さ節あれば、何れも明確に歌ふべきである。

四 歌詞中の「ばんざい」及「たのし」の歌ひ方に注意するを要する。

五 曲想は快活に且つ樂しげに、速度は稍々早く歌はゞ興味が湧く。

○基本教練

發聲練習 | 1-0 | 2-0 | 3-0 | 3-0 | 2-0 | 1-0 ||

高音を美しく且つ自由に發聲し得る練習をなす。但し母音を結びつけ、發音練習とするも宜ろし。

○歌曲復習

「二月一日」及「君が代」等の儀式用歌曲を復習する。既習の歌曲等に就ても整理的に復習する。

第三學期

教授豫定時數凡十八時

月・週

教 授 事 項

村の鍛冶屋 (文唱四)

要旨 本歌曲を授け、十六分音符並列の旋律の歌ひ方に習熟せしめ、兼て勤勉努力の風を助長し、快活なる感情を養ふ。

要項 一 口授聽唱法

11 | 3 5 5 5 | 1 3 3 3 | 2 5 6 5 | 1 — 0 ||

右を音程練習として音階圖に據り視唱せしめ、後に拍子練習として、二拍子に訂正して歌はしめる。

三 類形旋律は、その異なる點のみを指摘して自發的に唱謠せしむ。

四 各段の後半はデクレセントに、第三段は弱聲に歌はゞ面白味がある。

尋常四年第三學期

五 曲想は軽快に、速度は表示せられたるを守り、速きに失すべからず。

○基本教練

音程練習 1 2 3 1 | 4 - 2 0 | 3 4 5 3 | 6 - 4 0 | 5 6 7 5 | i - 6 0 | 5 - 7 - | i - 0 ||

右の應用四度音程を、音階圖に據りて指唱せしめる。

○補充教材

霜 (文唱四)

右の歌曲を授け、三拍子のハ長調歌曲の唱謠に習熟せしめ、霜置く野道、橋の上、共に面白き風情ある場面を歌ひて、美的快感を喚起する。

雪合戦 (文唱四)

要旨 本歌曲を授け、切分音の歌ひ方を知らしめ、壯快なる雪合戦の様を歌ひて、元氣を鼓舞し快活なる感情を養ふ。

要項

一口授聽唱法

1 1 | 3 5 6 | 5 3 0 | 3 5 2 | 3 1 0 | 3 6 5 4 | 3 2 1 ||

右を豫備教練として、ハ調ラ音にて練習する。

三 切分音の拍子を明確に歌はしめる。四分音符を強聲に且つ長過ぎる位に歌はしめる。

近江八景 (文唱四)

要旨 本歌曲を授け、弱聲部起りの四拍子曲の歌ひ方に習熟せしめ、近江八景の美しさを歌ひて、優美高雅なる心情を陶冶する。

要項

一 樂譜視唱法 但しハ長調に移調して樂譜を表示する。

四 十六分音符の聯合したるは、「村の鍛冶屋」と對照して、その拍子を正確にする。

五 曲想は勇壯に、速度は表示せられたる速さにて齒切れよく歌ふ。

○基本教練

音階練習 1 2 3 | 4 5 6 | 7 1 7 | 6 5 4 | 3 2 1 | 1 . 0 ||

右の音階を拍子を正して練習する。アクセントの個所に注意する。

○鑑賞資料

(唱教二)

右の歌曲を鑑賞せしめ、一夜の中に現出したる銀世界の美しさを彷彿せしめて、美的情操を養ふ。

○樂典大要

切分音の意義及歌ひ方を授ける。

タイを附したる場合の切分音をも授ける。

11 | 5 | 5.565 | 5-32 | 2432 | 1-0 ||

右を拍子練習として、楽譜を視唱せしめる。

第三段の音程が少しく混乱し易ければ注意を要する。

四 重苦しき歌ひ方に陥る傾向あれば、力めて引き立たせるやうに歌ふべきである。

五 曲想は優美に、速度は緩徐に流れぬやうに注意を要する。

○基本教練

拍子練習 數へ方の實際を授け、楽譜に就て實際に數へさせる。

聽音練習 ハ長調の基音を授け、各音を自由に聽き分けさせる。

○補充教材

湖上の花 (教育唱)

右の歌曲を正教材に關聯して授け、曲想の異同を判別せしめ、優美なる心情を陶冶する。

三月

九八

橋中佐

(文唱四)

要旨 本歌曲を授け、短音階曲の歌ひ方を知らしめ、橋中佐の壯烈なる最期の光景を歌ひて、悲壯なる感情を喚起する。

事項

一 樂譜視唱法

11 | 3-i6 | i-76 | 7:2i7 | 6-0 ||

右を短音階の音程練習として、楽譜に據り視唱せしめる。

第二段第三小節の音程が狂ひ易ければ注意を要する。尙、短音階の特徴に就て解説する。

四 この曲は、高音が連続し居るを以て、兒童の聲帯の疲勞に注意する。

五 曲想は悲哀に、速度は早くなく、最終は少しく緩かに歌ふ。

○基本教練

音程練習 1425 | 3647 | 5i62 | i-0 |

i574 | 6352 | 4i37 | 1-0 ||

四度音程を總括的に授ける。但し一小節宛を正確に階名にて歌はせる。

○鑑賞資料

名古屋城 (尋唱五)

右の歌曲を讀み方と聯絡して鑑賞せしめ、名古屋城の雄姿と來歴とを知らしめ、快活なる感じを與へる。

○樂典大要

短音階の構成及形式の大意を説く。

(イ) ラ音より音階が始まる。

(ロ) 變體半音の上行音を有する。

短音階と長音階とを比較し、形式及感じの相異を知らしめる。

備

考

- 一、本學年より樂譜視唱に入る。但し最初は多少困難を感ずるかも知れないから、歌曲を數樂句に分割して徐々に練習すべきである。讀譜力を向上することは、前學年に同じである。
- 二、基本教練其の他の作業を増加し、心情陶冶の方面と殆ど相等しき時間と努力とを割く。
- 三、唱歌筆記帳は、本學年より之を所持させ、寫譜に就ての注意を與へ、指導しつゝ之が練習を行ふ。
- 四、樂典大要は、必要に應じてその名稱及効用を知らせ、反復問答して記憶を確實にする。
- 五、曲想及發想は、本學年より明示して、意識的に表情的唱謠を行はしめる。

月・週

四月
三二一

尋常第五學年

第一學期

教學豫定時數凡十二時

教 授 事 項

春

雨

(伊唱五)

要旨 本歌曲を授け、へ長調歌曲の視唱に習熟させ、春雨の情趣を味はせて優美なる情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 1 2 3 1 | 2 1 6 - | 5 5 6 2 | 1 - . 0 ||

右をへ長調にて板書し、讀譜練習旁々音程に習熟させる。

三 第三段には、少しく狂ひ易き音程あれば、注意して歌はせる。

四 詞にて歌はせる時に、成可く柔く且つ美しく發音して歌はせる。

五 曲想は優美に、速度は中等の速さにて歌ふ。

○基本練習

拍子練習 歌曲を寫譜させた後に、拍子に就て問答し、呼吸法を一齊に行ふ。

尋常五年第一學期

發音練習 母音を四個乃至五個を配合して練習する。

○補充教材

春の野 (教育唱)

右の歌曲を補充教材として授け、うららかなる春の野邊を散策する愉快さを歌ひて、愉快の情を喚起する。

○樂典大要

→長調音階の構成及形式の大要を授ける。
變記號の名稱形狀及効用を説く。

鐘のぼり (文唱五)

本歌曲を授け、本曲特有の節奏の歌ひ方になれしめ、五月節句の情趣を味はせ、快活にして勇壯なる氣分を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 1. 2. 3. 4. 5. 4. | 3. 4. 2. 4. 3. 1. | 5. 1. 2. 3. 2. | 1. - . 0. ||

右を樂譜にて表示し、節奏練習として授ける。

三 附點八分音符の拍子及その個所の音程が曖昧にならぬやうに歌ふ。

四 歌詞を附して歌ふ時、詞を長音せる處が、稍々不明瞭となる恐があるから注意

を要する。

五 曲想は輕快に、速度は表示せられたる通りに齒切れよく歌ふ。

○基本練習

音程練習

1 2 3 4 | 5 - 1 0 | 2 3 4 5 | 6 - 2 0 |
3 4 5 6 | 7 - 3 0 | 4 5 6 7 | i - 4 0 ||

右の形式にて五度音程の各種を教へる。但し音階圖に據つて正確に指唱せしめる。

○鑑賞資料

舞へや歌へや (文唱五)

右の歌曲を聽かしめ、春の野に歌ふ鳥、花の蔭に遊ぶ胡蝶の美しさを彷彿させて、優美なる心情を陶冶する。

○樂典大要

附點音符の聯合形式に就て説明する。
その唱法上の實際をも授ける。

海

要旨 本歌曲を授け、三拍子歌曲の唱法に堪能ならしめ、詩趣に富みたる海の風光を歌ひて、優美なる情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

(文唱五)

六

一九八〇月

妙

義山

(尋唱五)

要旨 本歌曲を授け、この曲特有の節奏の歌ひ方に習熟せしめ、妙義山の奇勝を歌ひ優雅なる心情を陶冶する。

要項

- 一 樂譜視唱法

11 | 1 2 3 4 | 5 6 5 — | 5 4 3 2 | 1 7 6 — | 5 6 7 | 1 — 0 ||

右を節奏練習として、樂譜に據り練習す。

三 音程では、第二段及第五段が誤唱し易ければ注意を要する。

四 發想に充分注意して歌ふことが肝要である。

五 曲想は優美に、速度は表示せられたるを守りてのびくと歌ふ。

基本練習

音階練習

1 2 3 4 | 5 6 5 4 | 3 2 1 7 | 6 5 6 7 | 1 3 5 3 | 1 5 1 — ||

右の形式の音階を(調階名にて練習する。調子を正すと同時に拍子を正確にする。

補充教材

箱根山

(教育唱)

この歌曲を授け、箱根山の古蹟として有名なる所以を知らせ、往時を偲ばせて、優雅なる情を養ふ。

11 | 5 3 5 1 | 1 7 6 7 | 6 5 5 — ||

- 右を拍子練習として、樂譜によりて歌ひつゝ拍節せしめる。
- 三 第七音7音の歌ひ方を正確に且つ美しく歌はしめる。
- 四 拍子節奏及曲の形式等は、海の歌曲と比較して研究させる。
- 五 曲想は美しく且つ軽く、速度は中等の速さにて歌ふ。

基本教練

和音練習 二音を同時奏して、調和する音を協和音と稱することを説き、その諸和音を聴かしめる。

1 ... 1 | 1 ... 5 | 1 ... 4 | 1 ... 3 ||

鑑賞資料

神功皇后

(國教唱)

右の歌曲を聴かせ、神功皇后の御壯圖と御人格とを偲はしめて、快活なる情操を陶冶する。

七

一二二月

納

涼

(文唱五)

要旨 本歌曲を授け、八分音符弱聲部起りの歌曲の歌ひ方に習熟せしめ、田園の一家族が團樂しつゝ夕涼する様を歌ひて、爽快なる感情を起さしめる。

要項

- 一 樂譜視唱法 但し便宜の爲にへ長調に表示する。

尋常五年第一學期

二 | 5 | 1・2305 | 1234503 | 4・3203 |

| 4321205 | 1・32・5 | 1—・0 ||

右を拍子練習として、樂譜に據りて視唱せしむ。

三 この曲は、拍子が少しく複雑なれば、之を確實に歌はすべきである。

四 類形旋律である第四段後半と第五段前半とは、混同し易ければ注意を要する。

五 曲想は優美に且つ軽く、速度は表示せられたるを嚴守する。

○基本練習

節奏練習 | 1・111 | 3・333 | 5・555 | i・111 ||

右の節奏を普通音符の配合より漸次に變化して練習する。

○補充教材

夏 休 み (中等唱)

右の歌曲を授け、夏休みが心身の鍛練の爲に、如何に愉快に過すべきかを知らせ、その愉快なる期待を歌ひて、爽快なる感起させる。

○樂典大要

延長記號の効用を説き、本歌曲に附されたる場合に就て三倍と限定す。

延長記號の附着せられたる前後の歌ひ方を教へる。

第二學期

教授豫定時數凡十三時

月・週

九 月

一 二 三

教 授 事 項

鳥 と 花 (文唱五)

要 旨 本歌曲を授け、四拍子歌曲の歌ひ方に習熟せ、その内容によりて優美高尚なる心情を陶冶する。

要 項 一 樂譜視唱法 但しト長調に就て授く。

11 | 1—23 | 2・250 | 2・250 | 5—34 |

| 6・542 | 1—・0 ||

右を豫備練習として、樂譜に據り調子拍子を確める。

三 對樂句に成れる第二段第三段の異同を明かにする。

四 第四段の音程中に、誤唱する個所あれば注意すべきである。

五 曲想は優雅に、速度は緩徐に流れぬやうに歌ふ。

○基本教練

拍子練習 本歌曲より抽出して新事項の數へ方を授く。

呼吸練習 呼吸を聲音にする練習を課す。
發聲練習 一發聲中に強弱を變へる練習を課す。

○補充教材

(少唱初)

蟲の樂隊

右の歌曲を授け、秋の廣野の千草に月明るき夜半、千々に鳴く蟲の聲の面白さを歌ひて、兒童の美的快感を養ふ。

○樂典大要

ト長調音階の構成及形式を説く。
嬰記號の名稱形狀及効用を知らしめる。

管

公 (文唱五)

要旨 本歌曲を授け、ホ短調曲を知らしめ、道眞の誠忠なりし事實を歌ひて、人格を欽仰せしむると同時に優雅高尚なる心情を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法 但しホ短調に就て説明する。

二 3-6̣6̣ 717- | 3-43 | 217- |

176 #5 | 6-0 ||

右を短音階曲の豫備として、その調子を練習する。

- 三 短音階の特徴及反復記號等に就て説明する。
- 四 歌詞は少しく難解なれば、平明に解説する。但し他教科にて學びたる處と聯絡して授ける。
- 五 曲想は悲哀に、速度は早さに過ぎぬやうに歌ふ。

○基本教練

音階練習 6-71 | 23 #4 #5 | 6-0 | 6-54 |

3217 | 6-0 | 6136 | 316- ||

右をホ短調にて表示し、樂譜に據り視唱せしめる。

○鑑賞資料

去年今夜 (中學唱)

この歌曲を鑑賞せしめて、正教材との感想の異同を比較せしめ、前項と同様の目的を達する。

○樂典大要

ホ短調音階の構成の大意を授ける。
ト長調と比較して異同を明確にする。

秋

の

山

(春唱五)

要旨 本歌曲を授け、ト長調軍歌調歌曲の歌ひ方に習熟せしめ、樂しき秋の登山の爽快さを展開して、愉快なる情を起さしめる。

尋常五年第二學期

要項

一 樂譜視唱法

11 | 5-3 2 | 3 1 2- | 1-5 3 | 4 2 3- | 1-5 6 | 5 5 1- ||

右を豫備教練として、樂譜に據りて視唱せしめる。

三 拍子上、第三段第四小節に困難な處があるから注意する。音程は、第四段の第

一二小節が狂ひ易ければ、之も注意を要する。

四 この歌曲の伴奏ともなる可きは、ピアノ教則本などにあるから夫れを使用する。

五 曲想は愉快に、速度は四分音符八十位の速さを以て歌ふ。

○基本教練

音程練習 | 1 2 3 4 | 5 6 1- | 2 3 4 5 | 6 7 2- ||

右の形式に於て六度音程を授ける。但し音階圖に據り視唱せしめ、一音程を正確にする。

○補充教材

運動會の歌 (文唱五)

右の歌曲を授け、天高く氣澄みたる秋の日に運動する壯快さを心ゆく迄歌はせて、快活にして元氣ある心情に導く。

○樂典大要

附點八分音符の名稱形狀及時價を授ける。
十六分音符の歌ひ始めの拍子。

秋

景 (伊唱六)

要旨

本歌曲を授け、弱聲部起りの四拍子の歌ひ方に習熟せしめ、秋の美しき野山の景色を歌ひて、美的快感を興ふるにある。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 5 1 3 5 | 3 2 1 2 | 3 5 6 3 | 2 1- 0 ||

右を豫備練習として、樂譜を板書し視唱せしめる。

三 第二段は、一般に歌ひ苦く且つ調子狂ひ易ければ注意を要する。

四 弱聲部起りの音が不明瞭に流れ勝ちなれば、明確に歌ひ出す。

五 曲想は長閑に、速度は中等の速さに歌ふ。

○基本教練

節奏練習 | 1 1 1 . 1 1 | 2 2 2 . 2 2 | 3 3 3 . 3 3 ||

右の形式の節奏を提示して、數へ方及歌ひ方を授ける。後に特種の旋律に引直して歌はしめる。

○鑑賞資料

高き響 (女子唱)

この歌曲を聴かせ、紫式部及清少納言の風格を偲ばせ、高雅なる心情を陶冶する。

一〇 名 古 屋 城 (少唱五)

要旨 本歌曲を歌ひ、連続八分音符に依つて構成せられたる旋律の歌ひ方に習熟せしめ、名古屋城の雄姿を児童の心理に思ひ浮ばしめて、爽快なる感じを起さしめる。

要項 一 楽譜視唱法

11 | 1 3 5 — | 3 5 i — | 5 i 3 — | 6 — i 7 |
| 2 2 i 7 | i — . 0 ||

右を豫備教練として、音階圖に據りて歌はしめる。

三 第二段第三小節、第三段第二小節等の諸音程を特に注意する。

四 歌詞の發音は、凡て流暢に且つ鮮明に歌ふべく、時に「かすみてたてる…」は軽く發音する。

五 曲想は壯大に、速度は四分音符九十六の速さに歌ふ。

○基本教練

音階練習 | 1. 2 3 — . | 4. 5 6 — . | 7. i 2 — . | 3. 2 i — . |
| 7. 6 5 — . | 4. 3 2 — . | 1. 7 i — . ||

右の形式の音階を拍子練習を兼ねて練習する。

○補充教材

我國 兵 士 (少唱初)

冬 景 (文唱五)

要旨 本歌曲を授け、この曲特有の節奏及三拍子曲の歌ひ方に習熟せしめ、荒涼たる冬景色を歌ひて、靜寂なる感じを味はせる。

要項 一 楽譜視唱法

11 | 1 3 5 | 6 . 5 4 3 | 2 — 0 | 3 2 1 | 5 . 6 5 | 1 — 0 |

右を節奏練習として、樂譜を板書して視唱せしめる。

三 第一段第三四小節及第二段第一小節の音程を注意する。

四 歌詞は少しくこの程度の児童に味ひ兼ねるから、平明に解説して聽かせる。

五 曲想は極めて靜寂に歌ひ、速度は速さに失せぬやうに注意する。

○基本教練

音階練習 | 1 3 5 6 | 1 — 2 0 | 2 4 6 7 | 2 — 3 0 |
| 3 5 7 i | 3 — 4 0 | 4 6 i 2 | 4 — 5 0 ||

右の應用形式の六度音程を音階圖に依りて指唱せしめる。

○鑑賞資料

行進曲

器楽曲の鑑賞として任意の理解し易い行進曲二三を選択し、演奏して聴かせる。但し樂曲の大要を説き、之を聴く時の態度を注意する。

第三學期

教授豫定時數凡九時

教授事項

月・週

一月

朝の歌

(合唱五)

要旨 本歌曲を授け、二拍子變格小節の歌ひ方を教へ、早朝に各種の人々が活動を起す様を知らせ、爽快なる感情を起させる。

要項 一 樂譜視唱法 但しト長調に移調して樂譜を提示する。

11 | 5 | 1 5 3 3 | 5 6 5 5 | 5 3 3 5 | 5 2 2 5 |

3-2 5 | 1- . ||

右を拍子練習として、最初は四拍子にて音程を正し、後には二拍子に修正して練習する。

三 第二段及第三段の類形旋律の音程を注意して歌はしめる。

四 第三段を歌ふ時に、拍子が少しく混亂する恐あれば、正確なるを要する。
五 曲想は爽快に、速度は表示せられたるを守りて歌ふ。

○基本教練

拍子練習 $\frac{5}{4}$ | 3 2 . 5 | 1 . . . ||

右の數へ方を説明し、本歌曲に就て一齊に練習する。

○鑑賞資料

雪の朝 (少唱六)

この歌曲を聴かしめ、一夜の中に銀世界を現出したる美觀を彷彿させて、兒童の審美的情操を養ふ。

北國の雪 (合唱五)

要旨 本歌曲を授け、この曲特有の拍子の歌ひ方に習熟せしめ、地理にて學びたる北國の雪の光景を歌ひて、快活なる情操を養ふ。

要項 一 樂譜視唱法 但しハ長調に移調して樂譜を表示する。

11 | 3-2 1 | i 6 i - | 7 i 2 5 | 5 6 5 - |

二月
五 四 月

3 1 2 2 | 1 - . 0 ||

右を音程練習として、樂譜に據りて視唱せしめる。

三 第一段第二小節にある音符の配置上より來る拍子に注意させる。

四 第四段の延長記號は、約三倍を延長して次の小節に移る。

五 曲想は優美に愛らしく、速度は四分音符百〇四位に歌ふ。

○基本教練

音程練習 1 6 1 - | 2 7 2 - | 3 1 3 - | 4 2 4 - | 5 3 5 - | …… ||

右の形式にて六度音程を上下行共に練習する。但し一音程を正確に歌はしめる。

○補充教材

鶯 告 春 (女學唱)

右の歌曲を授け、野山は次第に春めくと同時に鶯が朗かに歌ふやうになる長閑さを歌ひて、美的快感を喚起する。

大 塔 宮 (文唱五)

要旨 本歌曲により、ホ短調曲の歌ひ方を會得せしめ、大塔宮の史實を知らしめて、悲壯なる感を喚起する。

要項

一 樂譜視唱法 但しホ短調に就て、その形狀特徴等を解説する。

11 | 3̣ | 6̣ 7̣ 1 2 | 3 4 3 2 | 3 2 1 7̣ | 7 . 6̣ ||

右を短音階の豫備教練として、樂譜によりて視唱練習を行ふ。

三 音程少しく困難にして調子狂ひ易ければ、力めて樂器に依頼せしめる。

四 延長記號の處は、約二倍を歌ひ、餘韻を存して次を徐ろに歌ひ終る。終りは消ゆる如くに歌ふべきである。

五 曲想は悲壯に、速度は緩徐に失せぬやうに注意する。

○基本教練

音程練習 6̣ 7̣ 1 2 | 3 - . 0 | 2 3 # 4 # 5 | 6 - . 0 |

6 5 4 3 | 2 - . 0 | 3 2 1 7̣ | 6̣ - . 0 ||

右のホ短調音階を樂譜によりて視唱練習せしむ。但し臨時音に注意する。

○鑑賞資料

良 友 (少唱四)

右の歌曲を聴かしめ、歌詞の内容よりして良友と悪友とを擧げ、友を選ぶ必要あることを知らせ、道徳的情操を養ふ。

○樂典大要

rit. の記號及効用を説く。

a tempo. の記號及効用を説く。

六拍子の意義を説き、その拍子記號を知せる。但し八分音符を單位とすることを併授する。

助

船 (歌唱五)

要旨 本歌曲を授け、六拍子曲の歌ひ方に習熟せしめ、暴風雨に難破せる船を挺身して救助する少年達の勇敢なる行爲を歌ひ、同情と勇敢との徳を養ひ、壯快の感を起さしめる。

要項

一 楽譜視唱法

11 | 5 3 3 1 | 2 1 6 5 | 1 7 1 2 | 3 - 0 |
| 3 4 3 2 | 1 7 1 2 | 1 - 0 |

右を拍子練習として最初四拍子に歌ひ、後に六拍子に修正しても練習する。

三段は高音連続して、調子狂ひ易ければ注意を要する。

四 六拍子に就ての呼節及拍子上の規則を授け、正確に拍子を取らしめる

五 曲想は感情を込めて歌ひ、速度は緩徐に失せぬやうに注意する。

○基本練習

節奏練習

1 | 1 1 1 2 | 2 2 2 3 | 3 3 3 ...

右の形狀に於て六拍子の節奏を練習し、會得したる後に、種々高度を附して應用練習をなす。

○歌曲復習

本學年間に學習したる歌曲に就て復習する。

卒業式に歌ふべき送別の歌も併せて復習し置く。

○樂典大要

本學年に於て授けたる諸項を總括する。

總括する場合に實地と聯絡し、應用を確實にすることが必要である。

備考

- 一、本學年に於ては、基本教練その他に涉りて程度も進み實力も出来たれば、之を實地に活用せしめて自發活動の風を助長すべきである。
- 二、奇數拍子及不完小節歌曲等の數を増加したれば、その方面の唱謠能力を確實にする。鑑賞資料としては、器楽曲をも併授する。
- 三、教師の範唱及範奏は、成可く之を省略して、兒童の自己活動を擴大する。
- 四、兒童の藝術的教養を主眼として、徒に技術の末節に走ることは、可成り之を避けねばならぬ。
- 五、若し學校に樂器の設備があるならば、兒童に自由に使用させる事にすれば、技術を進める上にも、趣味を向上する上にも、極めて有意義であると思ふ。

尋常第六學年

第一學期

教授豫定時數凡十二時

教授事項

月・週

三二一

臘

月夜

(文唱六)

要旨 本歌曲を授け、ニ長調歌曲の歌ひ方を知らしめ、田園に於ける臘月夜の情趣を味はしめて、優美にして長閑なる心情を養ふ。

要項

- 一 樂譜視唱法 但しニ長調に就て説明する。
 11 | 3 | 1・235 | 56553 | 5・632 | 1— |
- 二 右を拍子練習として樂譜に據り練習する。
- 三 この曲特有の節奏に就て、豫め之を説明し置くことが必要である。
- 四 歌詞は少しく難解なれば、極めて平明に解説すべきである。そして詩的情趣を喚起する。
- 五 曲想は優美に、速度は表示せられたるを守りてのんびりと歌ふ。

○基本練習

尋常六年第一學期

音階練習 三拍子の音階を階名又はア音にて練習する。但し節奏に注意せしめる。

1・2 3 4 | 5・6 7 i | 2・3 2 i | 7・6 5 4 |

3・2 1 7 | 1-0 ||

讀譜練習 板書したる本樂譜に就て、調子を明かにし、一齊に又は各個に讀譜せしめる。

鑑賞資料

春

(中學唱一)

右の歌曲を聽かせて、長閑なる春景色の氣分を味はせ、快活純美なる情操を養ふ。

樂典大要

ニ長調音階の構成及形式の大要を授ける。

(イ) 嬰記號の位置。

(ロ) 基音の位置。

五月
五月
兒島高德

(文唱六)

要旨 本歌曲を授け、ハ短調歌曲の歌ひ方に習熟させ、兒島高德の忠誠と詩的事實とを知らせて、美的感情を陶冶する。

要項

1 樂譜視唱法 但しハ短調に就て説明する。

11 3-1 2 | 3 6 5 | 6-3 4 | 3 1 6 |

7-1 4 | 3 3 6 |

右を短音階の音程練習として、樂調に據り練習する。

三 第五六段に在る切分拍子に就ては、豫め練習し置く必要あり。

四 歌詞にて歌ふ時に、音程が不確實に陥る處が隨處にあり、注意すべきである。

五 曲想は情を込めて、速度はだれぬやうに歌ふことが大切である。

基本練習

音程練習 左に掲げた七度音程を音階圖又は樂器に合はして練習する。

1 2 3 4 | 5 6 7 | 1-0 | 2 3 4 5 | 6 7 i |

1-0 | 3 4 5 6 | 7 i 2- | 3-0 |

但し右の形式は、上下行共に行ふものとす。

拍子練習

切分音の拍法に就て數へ方及打節等に依りて、明確なる觀念を與へる。

6 4 3 1 6 |

補充教材

日本海々戰

(文唱六)

右の歌曲を授け、三拍子の觀念を確實にし、雜記號に就て教へ、日本海々戰の壯觀なりし有様を歌ひて、勇壯なる心情を養ふ。

樂典大要

ハ短調音階の構成及形式の大要を説く。

(イ) 變ホ長調と同一なる記號を使用する。
(ロ) 階名は亦ホ長調と同一に見做す。

朝

風 (唱歌二)

要旨 本歌曲を授け、二分音符及附點八分音符の結合せる拍子の歌ひ方を授へ、爽快なる朝風に吹かれつゝ通學する愉快さを歌ひて、快活なる情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 1. 3 | 5-5. 5. 5. 5. | 3-1. 1. 5. | 5-5. 5. 5. 5. |
3-1. 1. 2. | 3 4 3 2 | 1-1. |

右を拍子練習として、樂譜を示し視唱練習を行ふ。

三 拍子少しく困難なれば、豫め樂譜によりて豫習し置く。特に第四段後半、八分音符の弱起りに注意する。

四 歌詞にて歌ふ時、「吹くよ……」の次に休符を置きて歌ふは不可である。

五 曲想は爽快に、速度は緩徐に流れぬやうに注意する。

○基本教練

節奏練習 豫備教練と同様の形式を板上に提示して、打節又はラ音にて練習する。但し奏節の通りに行ふ。

四季

雨 (文唱六)

要旨 本歌曲を授け、三拍子歌曲の歌ひ方に習熟させ、四季の雨がそれ々に風情あるを知らせて、優美なる情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 1. 5. 6. 5. | 1 2 3 | 4. 3. 2. 1. | 2-1-0 |
5. 3. 1. 6. | 6. 5. 2. | 2. 2. 3. 2. | 1-1-0 |

右を節奏練習として、樂譜に據りて視唱せしめる。

拍子練習 節奏練習と聯絡して、本歌曲に依り拍法の練習を行ふ。但し一齊練習を行ふが宜しい。

○鑑賞資料

瀬戸内海 (教育唱歌)

この歌曲を聴かせて、讀本に於て授けたる事項の徹底を計り、瀬戸内海の風光を稱へて、優美なる情操を養ふ。

○樂典大要

雜記號の一としてスラーとタイとを授け、各々の特性を説明する。

(イ) スラーは異度の二音以上を連結して圓滑に奏唱する。

(ロ) タイは二音を連結して、その時價の總和を奏唱する。

三 節奏の形式を分解して、能く會得せしめ、歌曲唱詠の實際に活用せしめる。
 四 歌曲總體をのびくと流暢に歌ふことが肝要である。切迫したる歌ひ方に陥るは不可である。

五 曲想は優美に、速度は表示せられたるを嚴守する。

○基本教練

音階練習 1 3 2 4 | 3 5 4 6 | 5 7 6 i | 7 2 i | —

1 1-2- | 3-4- | 5-6- | 7-i- ||

右は和音練習を併せて行ふものにして、高音と低音とを別々に練習し、後に同時唱を行ふものとす。

○補充教材

桶狭間 (郷土唱歌)

この歌曲を授け、歴史に於て學びたる織田信長の事績に聯絡して、當時の戦跡を偲ばしめて、悲壯なる心情を喚起する。

蓮

池 (文唱六)

要旨 本歌曲を授け、弱聲部起り六拍子曲の歌ひ方を會得せしめ、蓮の咲く池の邊りの朝夕の光景を歌ひて、優美高雅なる心情を陶冶する。

要項

1 樂譜視唱法

1 | 3 2 1 — | 5 4 3 — | 4 3 2 1 | 2 7 5 — |
 | 1 3 2 7 | 1 — • 3 | 4 — 2 — | 1 — • 0 ||

右を拍子及調子練習として、樂譜に據りて視唱させる。但し習熟後には六拍子に変更する。

三 六拍子は、概してだれ易くて次第に緩慢となる恐があるから注意する。

四 第五段目の「ああ…」の延長記號を附したるは、約二倍位を延長する。

五 曲想は爽快に、速度は緩かに失せぬやう且つ流暢に歌ふ。

○基本教練

聽音練習 基音を示して二度三度…の各音程及和音の聽き取りを練習する。

前に行ひたる旋律の斷片を聽き取らせ、且つ之を譜に書取ることも練習する。

○鑑賞資料

瀑 布 (中等唱1)

右の歌曲を聽かせて、瀑布の墜々と落つる壯觀と涼味とを彷彿して、爽快なる感を起さしめる。

○樂典大要

タイを附したる二音符に、延長記號がある時の延長時價を説明する。

月・週

教 授 事 項

九 月
一 二 三

汽車の旅 (音数二)

要旨 本歌曲を授け、八分音符スタカットの歌ひ方に習熟せしめ、汽車旅行の愉快さを彷彿せしめて、壯快なる感を起さしめる。

要項 一 樂譜視唱法 但しト長調に移調して樂譜を表示する。

11 | 3 2 3 2 5 | 1 2 3 4 5 5 | 1 3 5 — |
| 3 3 3 2 1 | 2 2 2 1 2 | 3 5 1 — ||

右を拍子練習として樂譜に據り視唱せしめる。但し後には二拍子に變へて授く。
三 聯合八分音符の各音は、曖昧に流れ易ければ、一音宛を正確に歌ふ、
四 スタッカットの八分音符は、軽く十六分音符の如く歌ふのが宜しい。
五 曲想は快活に、速度は餘り早くなりて、粗笨に流れぬやうに注意する。
○基本教練

音程練習 左の八度音程を音階圖に依りて練習する。

十 月
四 五

秋

要旨 本歌曲を授け、六拍子歌曲の歌ひ方に習熟せしめ、天高く氣澄みたる秋の季節に野山に散策する愉快さを歌ひて、快活なる心情に導く。

要項 一 樂譜視唱法

11 | 5 5 1 2 | 3 — 0 | 3 2 3 4 | 5 — 0 |

○補充教材

燈

臺

(文唱六)

右の歌曲を歌はせ、燈臺が尊き任務を盡しつゝあることを知らせ、快活なる情操を養ふを以て要旨とする。

○樂典大要

聯合十六分音符の名稱と歌ひ方。
スタッカートの名稱及その效用。

(文唱六)

5 3 1 6 | 2 - 0 | 2 2 3 2 | 1 - 0 ||

右を拍子練習として、二小節宛を楽譜に據り視唱せしめる。

三 音を引きたる處は、明確に表はれるやうに歌ひ、曖昧に陥らぬやうに注意する。

四 第三段末の個所には、休符が入らぬやうに、第四段末は、五拍を正しく歌ふやうに注意する。

五 曲想は快活に、速度は緩徐に失せぬやうに流暢に歌ふ。

○基本練習

拍子練習 六拍子の拍法及數へ方等に就て、一齊練習を行ふ。

5 5 5 5 | 5 5

六拍子の強聲部を明かにし、指揮法をも練習する。

○鑑賞資料

器 樂 曲

右は教師の任意選定に依りて、器樂曲を聴かしめ、その内容を充分に味はせ、器樂曲の鑑賞能力を高める。

豊

年 (小唱五)

要旨 本歌曲を歌ひ、二分ノ三拍子曲の歌ひ方を知らしめ、農民が豊年に鼓腹拊舞する様を歌ひて、愉快なる感を起さしめるにある。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 1 2 3 2 | 1 6 5 3 | 1 6 5 3 | 2 3 1 - ||

右を調子練習として授け、後に樂譜を書き變へ二分ノ三拍子として、拍子の練習をなす。

三 二分音符を一拍となし、他の音符は之に準ずることを説明する。

四 第二段第二三小節に涉り、六度音程續出する個所は、正確に歌ふべきである。

五 曲想は樂しげに、速度は中等の早さに歌ふ。斯くてのび／＼としたる感じを現はす。

○基本教練

音階練習 和音練習の一として、左の低音部を授け、高音部と同時唱を行ふ。

1 7 1 2 | 3 4 2 3 | 3 5 4 3 | 2 1 7 1 ||

充分に熟練するに至らば、高音部と同時に齊唱せしめる。

節奏練習 1 . 1 | 1 - 1 1 1 | の節奏に就て吟味し、呼吸を行はしめる。

○補充教材

琴 の 音 (女音唱)

右の歌曲を歌はせ、月白く風清き秋の夜の情趣を味はせて、優美なる感情を養ふ。

本歌曲に高さFの音があるから、移調して奏唱するが宜しからう。

○樂典大要

- 二分ノ三拍子の意義及記號に就て説明する。
- (1) 二分音符を單位として一拍とする。
- (2) 3・2と標記する

十一月 九 八

故郷

(文唱六)

要旨 本歌曲を授け、三拍子歌曲に習熟させ、遊子が、雨の日風の夜、觀るにつけ聴くに
つけて、我が戀しき故郷を思ひ出ずる切實の情を歌ひ、靜寂の感じを味はしめる。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 3 3 4 | 5—0 | 4 5 6 | 3—0 | 2 2 7 | 1—0 ||

右を音程練習として、樂譜に據りて視唱せしめる。

三 第二段の音程は正確に、第三段の拍子は切迫せぬやうに歌ふべきである。

四 歌詞は、流暢に而かも明確に發音し且つ歌ふ。

五 曲想は極めて靜寂に、速度は餘り急速にならぬやうに歌ふ。

○基本教練

音程練習 左の應用音程を音階圖に依りて指唱させる。

1 3 5 i | 1 2—0 | 3 2 5— | 6 1 2 5 | 3—0 |
3 i 7 6 | 4 6 5— | 2 5 2 3 | 1—0 ||

○鑑賞資料

航路難

(教育唱歌)

この歌曲を聴かせて、修身科に聯絡せしめ、奮闘努力は最後の勝利を得ることを
自覺させ、快活なる感情を養ふ。

10

森の小鳥

(少唱11)

要旨 本歌曲によりて、七度音程の歌ひ方を授け、夕日西山に春く時、小鳥の群が森の時
をさして飛び歸る様を歌ひて、快活なる情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | 3 2 1 6 | 5 6 5— | 5 4 2— | 5 3 1— |
5 4 2 7 | 1—0 1 ||

右を音程練習として、音階圖に據りて指唱練習を行ふ。

三 非常に難音程が錯綜し居るを以て、正確に一音程宛を歌はしめる。

四 歌詞にて歌ふ時に於ても、各音を明瞭に且つ淀みなく歌ふ。

五 曲想は輕快に、速度は稍々急速に歌はし趣味があるだらう。

○基本教練

拍子練習 本教材を利用して、二拍子歌曲の拍法を授け、一齊にその指揮法を行はせる。この際、終結法に

就て注意する。

調音練習 三度四度五度六度等の和音を提示して聴き分けさせる。

○補充教材

駢 足 (中等唱歌)

右の歌曲を歌はせ、駢足の壯快なる様を彷彿して、勇壯なる氣象を養ふ。
この歌曲は餘り速度を遅くなく歌ふ。

十二月

一三
一二

鎌

倉 (文唱六)

要旨 本歌曲を授け、ホ短調歌曲の歌ひ方を教へ、鎌倉の史實を歌ひて、その往時を偲ばしめて、詩的情趣を喚起する。

要項

一 楽譜視唱法

二 1-76 | 7-3- | 6712 | 3-3- |
3217 | 6-0 ||

右を調子練習として、楽譜に據り視唱せしめる。

三 オクタ；ツは、澁滞することなく某音より某音に移行するやうに注意する。

四 鎌倉の史實に就ては、その歌詞毎に敷衍して解説する。

五 曲想は優雅に、速度は餘り早くならぬやうに歌ふ。

○基本教練

音_五練習 ホ短調音階を板上に提示して、樂器の伴奏にて練習する。

6712 | 3#4#56 | 6543 | 2176 |

6136 | 316- ||

臨時嬰音に就て特に注意を要する。

○鑑賞資料

器 樂 曲

中田氏及田村氏のオルガン教科書中より任意の樂曲を拔萃して演奏し、之を聴かせて鑑賞能力を高める。

器樂曲の内容に就ては、豫め説明すべきである。

○樂典大要

ホ短調音階の構成及意義の大要を説く。

(イ) ト長調と同一調號である。

(ロ) ホ音の處が該調の一度である。

第三學期

教授豫定時數凡九時

月・週

教 授 事 項

尋常六年第三學期

一月

冬の夜の響 (新作唱)

要旨 本歌曲を授け、この歌曲特有の拍子に習熟せしめ、冬の夜の淋しき光景を歌ひて、静寂の感を起さしめる。

要項

一 楽譜視唱法

11 | 5—i5 | 6・653 | 34321 | 4—31 |
| 567i5 | 4・432 | 1—・0 ||

右を拍子練習として、楽譜に據りて視唱させ、稍々習熟したる時に二拍子に變更する。

三 第三段の音程が少しく混乱する恐あれば、正確に歌ふやうに注意する。

四 俳味を帯びたる歌詞なれば、その妙味を味ふやうに解説する。

五 曲想は淋しみを以て、速度は四分音符八十位の速さで、しんみりと歌ふべきである。

○基本教練

聴音練習 前學期に於て授けたる事項に準じて、四小節位の旋律を聴取し、之を楽譜に書き取らしめる。但し調子拍子は豫告すべきである。

發聲練習 前學期に準じて發聲的に發聲する練習をなす。

○鑑賞資料

器樂曲

ベリイ氏編『オルガンピアノ曲集』中の任意の樂曲二三編を選択して、演奏して聽かしめる。歌曲の内容を説明し、感想を整理することは、前例の通りに行ふべきである。

夜の梅 (文唱六)

要旨 本歌曲を授け、六拍子歌曲の歌ひ方に習熟させ、春未だ淺き頃に咲き初めし梅の風情ある様を歌ひて、優美なる情操を陶冶する。

要項

一 楽譜視唱法

11 | 5 | 3213 | 5654 | 4217 | 1・10 ||

右を拍子練習として、楽譜に表示し視唱せしめる。

三 各段末の附點四分音符と八分音符との結合は、四拍を正しく歌ひ、次の一拍を正しく休止する。

四 歌詞の意味は、この程度の兒童には少しく味ひ兼ねるから、平明に解説することが必要である。

五 曲想は優美に、速度は遅れぬやうに表示せられたるを守りて歌ふ。

○基本教練

音程練習 應用音程を音階圖に依りて指唱せしめる。例へば次に掲ぐるが如し。

二月

五 四 月

1-1 | 2-20 | 3-32 | 135- | 6-46 | 251- ||

拍子練習 弱聲部起りの六拍子の拍法を復習し、一齊に指揮練習を行はせる。

○補充教材

氷 滑 (中等唱歌)

この歌曲を歌はしめて、季節に因み、氷滑の壯快さを眼前に現はし、快活なる氣象を養ふ。

練習中はスタッカートを略し速度を緩めて練習し、習熟したる後に本来に復す。

七六 興國の人 (教育唱)

要旨 本歌曲を授け、聯合十六分音符の歌ひ方を授け、興國の人とは如何なる人を指すかをその内容より知らしめ、發奮進取努力等の諸徳を養ひ、勇壯なる心情に導く。

要項

一 樂譜視唱法

1 | 3 4 5 1 | 3 2 1 7 | 1 6 5 4 | 3 2 1 7 | 1 - 0 ||

右を音程練習として、音階圖に據りて視唱せしめ、後に拍子を歌曲の如く變更して練習する。

三 聯合十六分音符は、一音宛を明確に歌ひ、曖昧に陥らぬやうにする。

四 第三段目は、特に調子が狂ひ易ければ、格段の注意を要する。

五 曲想は壯快に、速度は中等の速さに齒切れよく歌ふ。

○基本教練

音階練習 前學期に於て授けたる二部の重音階を擴大して練習する。

1-2 3 | 4 5 6 7 | 1-2 | 3-1 : 0

1-7 1 | 2 3 4 2 | 3-5 | 1-1 : 0

3-2 1 | 7 6 5 4 | 3-2 | 1-1 : 0

1-5 3 | 5 4 3 2 | 1-2 | 1-1 : 0

右を或はスラーを附し、或はスタッカートを附し、又は強弱を附して歌ふ。

○鑑賞資料

あはれの少女

(小學唱歌)

右の歌曲を聴かしめ、病める母をひたすらに看護する可憐の少女の境遇を叙べて、憐憫の情を養ふ。

中田氏オルガン教科書に、器樂曲としても掲載されて居るから、同時に演奏して聴かせる。

聲樂曲と器樂曲との感想の異同を比較せしめる。

卒業の歌

(幼唱四)

要旨 本歌曲を授け、弱聲部起りの二拍子曲の歌ひ方に習熟せしめ、卒業の歡喜と榮譽とを歌ひて、一は儀式の準備となし、一には喜悅の情を喚起する。

要項

尋常六年第三學期

一 樂譜視唱法 但し變ロ長調に就て説明する。

11 | 5 | 1 7 6 | 5 0 5 | 1 2 2 | 3 2 1 7 | 1 0 ||

右を調子練習として、樂譜に依りて視唱練習を行ふ。

三 拍子のアクセントの附着さるゝ部分を明確にして、淀みなくすらくと歌ふ。

四 歌詞中の「四年のさまざま」は、「過ぎにし年月」と訂正して歌ふ。

五 曲想は真心を込め、速度は四分音符八十位の速さに歌ふ。

○基本教練

節奏練習 歌曲「卒業の歌」中より特種の節奏を二三抽出して練習する。

拍子練習 節奏練習と關聯して本歌曲に就て、二拍子の指揮法を練習する。

○歌曲復習

既習歌曲の總括の意味に於て、最も趣好に投じ印象深かりしもの數曲を復習する。

○樂典大要

歌曲に附帶して授けたる樂典を總括して、その知識を確實にする。

- (イ) 譜表 (ロ) 音部記號 (ハ) 音名 (ニ) 調子記號 (ホ) 階名 (ヘ) 音符 (ト) 休符 (チ) 發想記號 (リ) 雜記號

備考

一、本學年に於ける各種の音樂的作業及その他は、大體に於て策五學年に準じて之を課し、その一般を完了する。

二、唱歌の創作的作業方面にも留意し、簡易なる旋律の創作又は簡單なる歌曲の自力唱詠等を顧みねばならぬ。

三、教師は、常に輔導の地位に立ち、兒童の自發活動することを助勢し、批判訂正しつゝ、誘導することを本體とする。

四、中等學校に進む者の爲には、音樂に關する智識と技能とを整理し確實ならしめる。

五、音樂教育の各種の施設を顧みて、兒童の藝術的教養を完了し得たるや否やを考へ、將來の參考資料を發見せねばならぬ。

一、呼吸練習の意義及目的の概要を説明する。
 二、尋常小學校の最高學年に於て學びたる二三曲を抽出して復習する。
 三、復習するに必要なる事項、例へば調子拍子曲想發想等に就て問答し、唱誦するに適當したる状態に導く。
 四、その成績を商量して、歌曲教授及樂典教授の参考に資する。
 五、基本教練

高等第一學年

第一學期

教授豫定時數凡拾二時

月・週

教授事項

四月

既習歌曲

要旨 既習歌曲を復習し、既得の知識技能より出發して新授の事項を確實に會得する處あらしめようとする。

事項

- 一 尋常小學校の最高學年に於て學びたる二三曲を抽出して復習する。
- 二 復習するに必要なる事項、例へば調子拍子曲想發想等に就て問答し、唱誦するに適當したる状態に導く。
- 三 その成績を商量して、歌曲教授及樂典教授の参考に資する。

○基本教練

呼吸練習 本練習の意義及目的の概要を説明する。
 (イ) 發聲には好妙なる呼吸を要する。
 (ロ) この爲に呼吸する諸筋肉の訓練、及び有意的に調整し得る能を得しめる。
 (ハ) その種類としては、緩吸緩呼、急吸緩呼、急吸急呼、緩吸急呼の四種あれども前二者は特に必要である。

高等第一學年第一學期

(二) 呼吸の注意としては、姿勢を變じないこと。鼻より成り吸氣すること。齊に呼出すことが肝要である。

○樂典大要

樂譜の意義及價値を説明する。(尋常第三學年第三學期の事項を参照)

音の高低を表示する爲に、五線及加線を使用する。之を譜表と稱する。

(イ) 五線の成立條件。

(ロ) 五線の効用及呼稱。

(ハ) 加線の必要及呼稱。

既習 歌曲

要旨

要項

前週と同一の目的の下に復習を行ひ、新事項の豫備とする。

一 前週と同様なる方法を以て復習する。

二 復習したる後の整理は、確實になし置くことが必要である。

○基本教練

發聲練習 本練習の意義及目的に就て、その大要を説明する。

(イ) 唱歌は、音聲を以て唱誦する。

(ロ) 唱歌は、美の表現であるから、その聲音も又美でなければならぬ。

(ハ) この爲には先づ音聲を美しくするやう練習しなければならない。

(ニ) 音樂的の音聲は、左の要件を具備することを要する。

(イ) 充實すること。

(ロ) 清朗なること。

(ハ) 純正なること。 (ニ) 自由なること。

發聲するにはア音を以てなし、充分に吸氣し齊に呼氣しつゝ發聲する。その要領を示して一齊に發聲せしめる。

○樂典大要

ト字記號及音名に就て説明する。

(イ) ト字記號の名稱形狀及五線上の位置。

(ロ) 音名之名稱及譜表上の位置。

(ハ) ハロイト(ホニ) (日本音名)

音名はこの排列を反復する。

ハ音の位置は、下一線に位し、如何なる場合にも動くことがない。

○鑑賞資料

胡蝶 (中等唱歌)

この歌曲を聴かせて、陽春の候、野邊に百花咲き亂れ、花より花に戯むる、胡蝶の風情を玩味させて、輕快なる感を起させる。

鑑賞者としての態度を説明し、常にこの態度を以て、藝術品に接すべきことを教へる。

(イ) 公正なる態度を持し、雑念を去る。

(ロ) 巧利を根據として判斷してはならない。

(ハ) 自己の趣味を標準として、藝術の價値を妄斷してはいけない。

(ニ) 自己と藝術品とは同化すべきである。

概念的抽象的なる音樂の鑑賞は、比較的の基本準備が必要である。

批判は餘り必要でない。感銘することが必要である。

唱歌教授細目

既習歌曲

要旨 既習歌曲を復習し、既得の知識技能を基礎として、新授の事項を會得せしめる準備とする。

要項

- 一 前週に復習したる以外の歌曲を選びて、復習するに必要な事項の問答をなし、齊唱個唱を行ふ。
- 二 復習の整理は、前例に依りて之を處理する。
- 三 樂典事項を説明するに適したる例あらば、之より抽出する。

○基本教練

發音練習

本練習の意義及目的の概要を説明する。

(イ) 唱歌には、歌詞が必然に伴ふが故に、その詞を明確に且つ美しく發音する要がある。

(ロ) 従つて訛音や不正確な發音や、矯正しなくてはならない。

發音練習の種類は、左の二種である。

(イ) 母音練習

(ロ) 子音練習

發音の要領は、次の事項を注意せねばならぬ。

(イ) 正確なる口形を作成する。

(ロ) 口形運動は敏活なるを要する。

(ハ) 一度作成せる口形は、發音中變じてはならない。

(ニ) 子音を發音する時は、母韻を正しく韻かす。

○樂典大要

我が身の幸

(女子音樂教科書)

要旨 本歌曲を授け、ハ長調樂譜の唱謠に習熟せしめ、高等なる教育を享け得る我が身の幸福を感謝し、増々奮勵努力すべき決心を促して、快活なる情操を涵養する。

要項

- 一 樂譜視唱法
- 二 第一段第三小節の | 5 6 7 i... | と第二段第三小節の | 5 i 7 6... | とは誤唱し易ければ注意する。
- 三 各段末の四分音符は、各々一拍にて歌ひ切り、次の四分音符は、一拍を正しく

○鑑賞資料

故郷の廢家

(中等教育唱歌集)

本歌曲を鑑賞させて、讀本にて授けたる事項の徹底を計り、愛郷の情を涵養する。

音符及休符 音の長短を表示する記號を音符と稱する。

(イ) 單純音符として、全音符、二分音符、四分音符、八分音符、十六分音符、の各種の形狀名稱及價を授ける。

(ロ) 右の音符の時價は、全音符を假に四拍に假定し、他は之に準ずる。

休符は音の休止を表示する記號である。

(イ) 單純休符として、二分休符、四分休符、八分休符、十六分休符等の形狀名稱及時價を授ける。

(ロ) 休符の時價は、同名の音符と等しい。

休止する。この處、四分休符が消え勝ちなれば注意せよ。
第一章の歌詞より第二章に移る時に、直に第三段の旋律を歌ひ易ければ、特に注意を要する。

五 曲想は快活に、速度は四分音符百十二位の速さにて、すらくと輕快に歌ふ。
○基本教練

音階練習 本練習の意義及目的の大意を説明する。

(イ) 唱歌の曲は、凡て音階を基礎として構成するものである。

(ロ) 長音階の形式は、第三音と第四音、第七音と第八音の間は半音關係で、他は全音關係を以て構成せらるゝ系列を指すものである。

(ハ) 唱歌を正しく歌はうとすれば、先づ本練習によりて、その關係的高度を正しく且つ自由に歌ひ得ねばならない。

音階唱法上の注意としては、左の要件が大切である。

(イ) 母韻を正しく讀みかす。

(ロ) 口形に注意する。

(ハ) 半音關係の個所を正しく歌ふ。

○樂典大要

音階及拍子 ハ長調音階は、ハ音を基音として構成せられたる音階である。

(イ) 作圖に依りて、その構成の大意を知らしめる。

(ロ) 讀譜練習を課し、滯滞することなく歌ひ得るやうに練習する。

四拍子とは一節小内の強弱が一—(—)の如く反復して現はれる。換言すれば、一小節内に四分音符が四個の割合になる。その拍子記號としては、 $\frac{4}{4}$ と表記する。

(イ) 「我が身の幸」を引例して具體的の説明をなす。

(ロ) 拍子に關聯して、小節及段の名稱、單縱線及複縱線を授ける。

○寫譜練習

寫譜に關する諸注意を與へて、本歌曲を實地に寫譜せしめる。

(イ) 先づト字記號を記す。

(ロ) 歌曲の長短に應じて小節を切る。

(ハ) 終止記號として複縱線を終尾に附ける。

(ニ) 第三線を境として符尾の方向を定める。

(ホ) 線にあると間にあるとを明確に書き分ける。

寫譜は教師が取りまとめ、親しく誤寫を訂正する。

田

植 (中等唱歌)

要旨 本歌曲を授け、ハ長調樂譜視唱に堪能ならしめ、且つ附點音符の歌ひ方を授け、田植の情景を彷彿せしめて野趣を味ひ、快活なる心情を陶冶する。

要項

一 樂譜視唱法

二 第一段第三小節の $\dot{1} \cdot 5 \cdot 3 \cdot \dot{1}$ の諸音程を確實に歌ふ。第二段第二小節の音程も同様なる注意を要する。

三 第二段第二小節の $\dot{1} \cdot 5 \cdot \dot{1}$ の單純音符は、前小節の附點音符形式の墮勢で附點音符に誤唱し易いから注意する。同段第三小節の嬰記號を附したる5音は、確實に半音を上行する。

四 歌詞にて歌ふ時、各歌章末尾の撥音は、明瞭に發音し、之が爲に聲音が小さく

ならぬやうに注意する。尙長音したる音の後の音符を明確に歌ふべきである。
五 曲想は快活に且つ流暢に歌ひ、速度は表示せられたるを正しく守る。

○基本教練

音程練習 本練習の意義及目的の大意に就て説明する。

(イ) 音と音との距離を音程と稱する。

(ロ) その間隔的關係を知り且つ自由に歌ふことは、唱歌を學ぶ上に大切なことである。

音程の種類は普通左の數種である。

二度 三度 四度 五度 六度 七度 八度

三度音程の要領を示し、實際に練習する。

1-3-2-4-3-5-4-6-
5-7-6-i-7-2-i-0

右は上行のみを示したが、下行形式をも練習する。

○樂典大要

附點音符として附點二分音符、附點四分音符及附點八分音符の名稱形狀及時價を授ける。拍子として四拍子に於ける變格小節の大要を歌曲に就て説明する。

變

特

(女子音樂教科書)

要旨 本歌曲を授け、四拍子歌曲の唱謠に習熟させ、附點二分音符の歌ひ方を教へ、夏の涼しき暗夜に、明滅しつゝ飛ぶ螢の風情を歌ひて、優美なる情操を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

二 第一段第三小節の「5331」を、第二段第三小節の類形旋律とを混同して、正確に歌ふ。

三 八分音符並列の旋律は、拍子が切迫したる歌ひ方に陥るから、却つてゆつくり歌ひ、各段末の附點二分音符は、三拍を正しく歌はねばならぬ。

四 歌詞の「やよ及いさ」の呼び掛けの語は、餘り強聲でなく美しく歌ふ。「ちやらちん」も軽く柔かに歌ふ。

五 曲想は優美に、速度は餘り早くならぬやうのんびり歌はしむべきである。

○基本教練

拍子練習 本練習の目的及意義の大要を授ける。

(イ) 拍子とは、樂曲の進行中に一定の形式に依り、週期的に強弱の現出するを云ふのである。

(ロ) 強弱の正しき現出は、正しき歴時に支配せられる。

(ハ) 時間的藝術の一たる唱歌は、本練習の最も緊要なる事は言ふ迄もない。

拍子を採る方法に數種がある。

(イ) 耳に訴ふべき呼節踏節打節。

(ロ) 目に訴ふべき空畫。

呼節及空畫節の領を示して、四拍子の實際を練習する。指揮棒の振り方練習も行ふ。

5. 6 5 3 2 1 | i- 6 0 5 3 3 1 | 2...
1-2 3 4 5 6 7 8 | 9-10 11 12 13 14 15 | 16-17 18 19 20 21 22 | 23-24 25 26 27 28 29 | 30-31 32 33 34 35 36 | 37-38 39 40 41 42 43 | 44-45 46 47 48 49 50 | 51-52 53 54 55 56 57 | 58-59 60 61 62 63 64 | 65-66 67 68 69 70 71 | 72-73 74 75 76 77 78 | 79-80 81 82 83 84 85 | 86-87 88 89 90 91 92 | 93-94 95 96 97 98 99 | 100

○樂典大要

發想記號としてクレスセンド及デクレスセンドの形狀効用を授ける。
(イ) クレスセンドは、漸次に強聲に歌ふ。
(ロ) デクレスセンドは、漸次に弱聲に歌ふ。

七月
二二
三

明日は日曜日 (中學唱歌)

要旨 本歌曲を授け、二拍子歌曲の歌ひ方を知らしめ、歌曲の内容より壯快なる氣分を玩味させる。

一 樂譜視唱法

- 二 左の豫備教練を授けて、歌曲唱謠の準備とする。 1 3 5 i | 5 i 2 5 | i — 0 — 但し二拍子に變更して拍子を練習するも可なり。
- 三 第三段第三小節は、第一段第三小節と同一形式に歌ひ誤ることがあるから注意を要する。尙この歌曲は、比較的の高い音があるから、美しく歌ふやうにする。單純八分音符の並列は、附點音符にならぬやうに歌ふべきである。
- 四 歌詞にて歌ふ時、一音符に二音の配當されたるは、八分音符二個に分割して歌ひ、その他、凡て詞を流暢に歌ふ。
- 五 曲想は活潑に元氣よく歌ひ、速度は四分音符百二十位の速さが可いであらう。

○基本教練

○聽音練習 本練習の意義及目的の大要を説明する。

(イ) 正確に唱歌せんとすれば、先づ如何なる音も聽分け得る鋭敏なる耳が必要である。
聽覺機關は、練習の結果に依りて、如何程も發達する。
(ハ) この目的の爲に聽音練習をする。
聽音練習の種類は、左の數種の方法がある。
高低法 長短法 強弱法 旋律法 和聲法
聽音の要領を示し、先づ高低を階名に呼當てをさせ、後には書取りをなさしめる。
○樂典大要
強弱記號の形狀及効用を授ける。
f 強く。p 弱く。mf 中強に。mp 中弱に。
發想記號の効力は、次の記號の在る處まで及ぶ。

第二學期

教授豫定時數凡十三時

正 教 授 事 項

月・週
九 月
三 二 一

我 日 本 (伊小唱五)

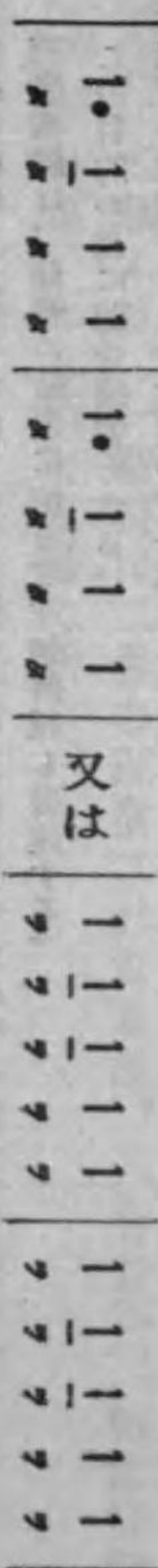
要旨 本歌曲を授け、ト長調歌曲の歌ひ方を知らしめ、我が國體の尊嚴を知り、愛國心を助長すると同時に、雄大なる氣象を養ふを以て要旨とする。

高等一年第二學期

- 一 樂譜視唱法
- 二 豫備教練としてト長調樂譜の読み方練習を行ふ。
- 三 曲節中のこの長六度音程を正確に歌ひ、歌曲終尾の二分音符並列の旋律は、前小節の墮勢にて時價縮小し易ければ、各々二拍宛を正しく保つ。
- 四 詞を附して歌ふ時、一音宛を力を込めて歌ひ、且つ明確なる發音をなすべきである。
- 五 曲想は雄大を現はす爲に力を込めて歌ひ、速度は稍々速に歌ふのが宜しい。

○基本教練

節奏練習 本練習の意義及目的に就て、その大要を説く。
 如何なる歌曲も、各小節は同様な長短音符の排列形式が、定まつて繰返されて居る。
 この繰返さるゝ形式を節奏と稱し、樂曲構成の三大要素の一つである。
 節奏を理解して歌へば、比較的容易に且つ面白く歌ひこなす事が能きる。
 節奏の形式は、拍子に依つて必ずしも同一小節内とは限つて居ない。
 長い形式の節奏は數小節に涉つて居る。
 短い形式の小節は一小節内に完結されて居る。
 拍子に依つては、小節の半ばから半ばに跨つて居る。
 節奏の形式の實例を擧げて、リズムカルの打節又はタ音ラ音にて練習をする。



○樂典大要

ト長調音階の構成の大要を説明する。
 一) ト音を基音として構成する。
 二) 音階の構成要件として、第七音に嬰記號を附して半音上行する。
 三) 變音記號中の嬰記號を授ける。
 四) 半音上行する記號を嬰記號と稱する。
 五) 調號とする場合と臨時記號とする場合とがある。
 六) 小節の正格變格に就て説明する。
 七) 弱聲部より起るのは變格小節である。
 八) 強聲部より起るのは正格小節である。

○鑑賞資料

運動會 (中田氏中等唱)
 右の歌曲を聽かせて、運動會の光景を彷彿させ、勇壯快活なる情を養ふ。

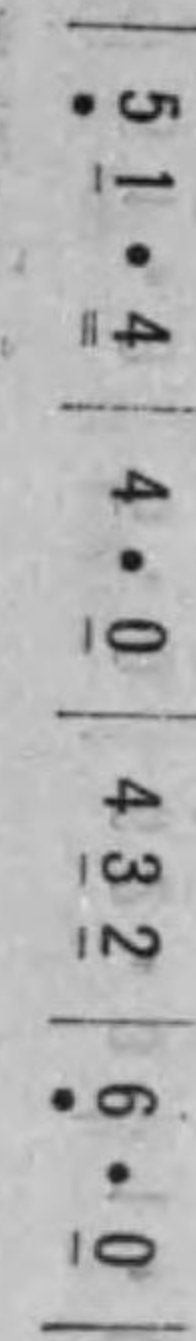
十月五日

運動會

(中教唱一)

要旨 本歌曲を授け、ト長調二拍子の歌ひ方に習熟させ、八分休符を會得させて、輕快にして勇壯なる情操を陶冶する。

- 一 樂譜視唱法
- 二 豫備教練として左の練習を課する。



高等一年第二學期

5̣. 1̣. 3̣ | 5̣. 0̣ | 6̣. 2̣. 3̣ | 1̣. 0̣ ||

右はト長調階名にて授け、その音程を正す。

三 第二段の最初にある 5̣. 1̣. 4̣. . . の完全四度音程、第一段末尾の27の短三度音程に注意する。

四 各小節に散在する附點八分音符と十六分音符とは、相互に時價に注意する。但し第三段の普通八分音符は、附點八分音符と混同するは不可である。

五 曲想は輕快に、速度は餘り早くなく歌ふ。

○基本教練

音程練習 1-23 | 4567 | i-2- | 3-0 |

3-21 | 7654 | 3-2- | 1-0 ||

右をハ長調階名にて練習し、後にはラ音又はタ音にて歌ふ。

○補充教材

才女 (小唱集三)

右の歌曲を授け、才女の面影を偲ばしめて、優雅なる情操を養ふ。

月下懷郷 (中等唱)

七 六
要旨 本歌曲を歌はせ、四拍子弱聲起りの歌曲の歌ひ方に習熟させ、遊子が故郷を懷ふ切なる情を展開して、淡き哀愁の感を喚起する。

要項

一 樂譜視唱法 但しハ長調にて表示し、原調にて歌はせる。

二 豫備教練として左の練習をハ長調階名にて授ける。

3 4 5 3 | 2 3 4 2 | 5 i 6 5 | 3 2 1 - ||

三 この歌曲にある4の短三度音程、及び同度の反復に注意して歌はせる。

四 各所に散在する四分休符の前にある四分音符は、一拍にて正しく歌ひ切り、次の四分休符を一拍正しく休止する。

五 曲想は淡き哀愁を以て、速度は餘り早くなく歌ふ。

○基本教練

音程練習 二度音程を復習して左の三度音程を課す。但し上行のみでなく下行も併授する。

1 2 3 1 | 2 3 4 2 | 3 4 5 3 | 4 5 6 4 | 5 6 7 5 |

6 7 i 6 | 7 i 2 7 | i - 0 ||

拍子練習 歌曲中の弱聲起りの拍法に就て練習する。

○鑑賞資料

器樂曲 (ハーモニーアルバム)

教師の任意の樂曲を選定して聴かしめ、その感想を整理することは前例の通り。

要旨 本歌曲を歌はせて、短音階曲の大要を知らしめ、歌曲の内容を玩味させて、優美なる情操を養ふ。

要項

- 一 樂譜視唱法
- 二 豫備教練として左の練習をイ短調にて授ける。
3-6- | i764 | 3i7i | 6-0
- 三 第四段第四小節の3iの短六度音程、及び3音はその高度を正しく保ちて歌ふ。
- 四 第一段第一小節の附點四分音符は正しく一拍半を保ち、第五段末尾は、漸次に緩徐に、而して延長記號の附したるは、約二倍延長する。
- 五 曲想は優美にさら／＼と淀みなく歌はゞ、曲趣を發揮し得るであらう。

○基本教練

音階練習 短音階の形式を説明したる後に、左のイ短調音階を階名にて練習する。

6-7i | 23#4#5 | 6-0 | 6-54 | 32i7 | 6-0

○樂典大要

短音階の構成及び特徴に就て説明する。

- (イ) 短三度に初り、哀調を帯ぶ。
- (ロ) イ短調は、イ音を基音とし、第六音第七音は半音上行する。但し下行の場合は、本位音とする。
- (イ) 延長記號の形狀及効用。

馬上の少年

(中學唱歌)

要旨 本歌曲を授け、二拍子に於ける弱起り歌曲の歌ひ方に習熟させ、歌曲の内容よりして、勇往邁進の氣を振作し、壯快なる心情を陶冶する。

要項

- 一 樂譜視唱法
- 二 左の豫備音程を階名にて練習する。
532i | 675- | 5267 | i-0
5i36 | 5323 | 1-0
- 三 曲中の53及i3の六度音程に於て、その後者の音を正確に歌ふ。526の四度及五度音程も混亂せぬやうに注意する。
- 四 各段末の八分音符のある處と附點四分音符のある處との區別を分明することを要する。八分音符の弱聲部の拍子に注意する。

(ロ) 此の名稱及効用。
○補充教材

景 (女學唱)

右の歌曲を授け、曉の景色を歌ひて、快活なる情操を養ふ。

五 曲想は壯快に、速度は成可く速く歌ふ。但し輕快なるを要する。

○基本練習

拍子練習 二拍子變格小節の拍法を練習する。

5 | 5 5 8 7 | 1 5 ... 數へ方及指揮棒の振り方を練習する。

○歌曲復習

既習教材の數曲を抽出して、内容を問答したる後に復習する。
儀式唱歌「一月一日」及「君が代」等に就ても復習し置く。

第三學期

教授豫定時數凡九時間

月・週

教 授 事 項

一 二 三

氷

滑 (中等唱歌)

要旨 本歌曲を授け、スタカットの歌ひ方に習熟させ、氷滑の壯快なる様を展開して、快活なる氣分を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法 但しハ長調又はト長調に記譜し、原調にて歌はしめる。

11 | 5 | 1 3 2 4 | 3 - 1 3 | 5 3 4 2 | 1 - 0 |

右を豫備教練として階名にて練習する。但し拍子を主とし二拍子に直しても練習する。

三 各所にある4音を中心としての三度音程に注意する。

四 十六分音符の並列せられたるに眩惑されて、拍子を急速にするは不可である。スタカットを美しく歌ふ。

五 曲想は極めて輕快に、速度は可なり速い方が宜し。

○基本練習

聽音練習 教材中の一断片をピアノにて演奏して聽かしめ、後にはその應用を聽取せしめる。例へば

1 6 5 . 3 | 4 2 1 - | 又は、 | 5 | 1 3 2 4 | 3 5 1 - | の如し。

○樂典大要

スタカットの記號及効用に就て説明する。

イ) スタカットは、その音符の半分の長さに短縮して輕く切りて歌ふ。

ロ) 聲音を後に殘すは悪い歌ひ方である。

○鑑賞資料

國 旗 (北村氏中唱)

右の歌曲を聽かしめて、國旗の意義を知らせ、愛國心を養ひ、快活なる心情を陶冶する。

いくさの跡 (新撰歌唱)

要旨 本歌曲を授け、短音階曲の歌ひ方に習熟させ、槍慘なる戦場を児童に想起させて、悲愁の感を喚起する。

要項

- 一 楽譜視唱法
- 二 豫備教練としてイ短調の音階及歌曲中の難音程を抽出して練習する。
- 三 第三段第一二小節の第二音7を正確に、第四段第二小節の4音を軽く美しく歌ふ。その他、短音階の第四音の高度に注意を要する。
- 四 聯合八分音符は、一個宛明確に、段末の二分音符は二拍を正しく保ち、一拍を正しく休止する。
- 五 曲想は悲哀に、速度は餘り早くなく歌ふ。

○基本教練

音程練習 左の四度音程を階名にて歌はせる。但し習熟したる後はア音にても歌ふ。

1-40 | 2-50 | 3-60 | 4-70 |

5-10 | 6-20 | 7-30 | 1-0 ||

○補充教材

荒城の月 (中學唱歌)

右の歌曲を授け、短音階曲の唱謠に習熟させ、荒廢したる城址を眺め、昔を偲び

孤

兒 (中唱集一)

て哀愁の感を起さしめる。

要旨

本歌曲を授け、六拍子の歌ひ方を教へ、不遇の者に對する同情憐憫の情を喚起する。

要項

- 一 楽譜視唱法
- 二 豫備教練として六拍子の練習をなす。
3 | 5 6 5 3 | 5 3 2 5 | 6 1 5 2 | 1 . 1 ||
- 三 歌曲中 5 3 及び 5 2 の音程を混同せぬやう、各々を正確に歌ひ分ける。
- 四 各段末尾のタイにて結びたる音符は、五拍を正しく歌ふ。尙、各段の中間の呼吸は、拍子に影響せぬやうに歌ふ。
- 五 曲想は、哀れの感を起し得るやうに、速度は、餘り緩徐に流れぬやうに歌ふ。

○基本練習

拍子練習 六拍子の數へ方及びその拍法を練習す。併せて節奏練習も行ふ。

○樂典大要

- (イ) 六拍子の意義及拍子記號を説明する。
- (イ) 小節内に周期的に強弱が次の如く表はれる。
1-1-1-1-1-1 八分の六拍子は、八分音符を單位とする。

三

九 八 月

我國 兵 士 (少年唱初)

要旨 本歌曲を授け、アクセントの附け方を教へ、忠君愛國の念を助長して勇壯活潑なる氣象を陶冶する。

要項 一 樂譜視唱法

二 豫備教練として左の音程を練習する。

5 2 5 — | 5 i 5 — | i 2 3 — | 4 6 2 — |

i 3 6 — | 5 2 3 — | 2 3 1 — ||

三 豫備教練の項に掲げたる諸音程及び i 7 6 7 i — …… の音程を正確に歌ふ。

(ロ) 拍子記號は、1/8 を以て表示する。
雜記號として左の二種を説明する。
(イ) タイとは、同度の二音を結合する。この場合、兩音符の長さの和を歌ふ。
(ロ) スラーとは、異度の數音を連合する。この場合は、數音を圓滑に歌ふ。

○鑑賞資料

早春の賦 (新作唱)

右の歌曲を聴かせて、早春の情趣を玩味させ、快潤なる氣分を養ふ。

四 歌曲最後の一樂句宛切りて歌ふ處は、正しく切つて歌ふ。その爲には、八分休符を正しく半拍休止する。
五 曲想は勇壯に、速度は稍々早く齒切れよく歌ふ。

○基本練習

音程練習 左の五度練習を課す。

1—5 0 | 2—6 0 | 3—7 0 | 4—i 0 |

5—2 0 | 6—3 0 | i—0 ||

上行のみならず下行形式も授ける。

節奏練習 左の節奏形式を抽出して練習する。

1 1 | 1 . 1 1 | 1 2 2 | 2 . 2 2 2 | 2 . . . ||

○樂典大要

強弱記號として左の事項を授ける。

(イ) p の名稱及効用。

(ロ) mp の名稱及効用。

(ハ) アクセントの形狀及効用。

備考

- 一、第一學期に配當した基本練習は、豫定より多少後れても妨げないが、樂典大要は、必ず豫定の通りに進行させることを要する。
- 二、讀譜練習は、樂譜視唱に缺くことが能きないから、可成り多くの時間を割きて之を練習すべきである。
- 三、示範は、最も困難なる部分に就てのみ之を示し、その然らざるは成可く兒童自身の活動に俟つ方が宜しい。
- 四、尋常の部と重複したる事項が可成り多いが、之は一層詳細に且つ徹底的に授ける意味に於て取扱ふべきである。
- 五、變聲期に入りつゝあるから、唱歌を厭はないやうに、鑑賞方面を成る可く多くする。

高等第二學年

第一學期

教授豫定時數凡拾二時

月・週	四月	三月	二月	一月
事項	<p>雲雀 (田村中唱一)</p> <p>本歌曲を授け、ハ長調三拍子曲の歌ひ方に習熟させ、長閑なる春の野に囀る雲雀を歌ひて、快活なる情操を養ふ。</p> <p>一 樂譜視唱法</p> <p>二 豫備教練として左の練習をなす。</p> <p>1 3 5 3 5 i 7 5 6 5-0 5 i 2 i-0 </p> <p>拍子の練習も併せて行ふ。</p> <p>三 歌曲前半にある三和音式の旋律は、その音程を正しく歌ふ。第七音の7音は、その高度を確實に保つ。</p> <p>四 第二段の八分音符並列の旋律は、拍子が急迫し易ければ、のびくと歌ふ。</p> <p>五 曲想は快活に、速度は中等の速さに歌ふ。</p>			

五

五月

○基本練習

音階練習 在の三拍子音を階名又はア音にて練習する。下行形式も併せて行ふ。

1 2 3 | 2 3 4 | 3 4 5 | 4 5 6 | 5 6 7 | 6 7 i | 7 i 2 | i - 0 ||

發聲練習 ハ長調三和音にて練習する。但しクレスセンド、デクレセセンドの練習をも附加する。

○樂典大要

第一學年に於けるハ長調の部分に就て複習を行ひ、讀譜練習をなす。

殘

花 (中音一)

要旨 本歌曲を授け、ニ長調歌曲の歌ひ方に習熟させ、晩春の寂莫たる景色を歌ひ、靜寂の感を引きしめる。

要項

- 一 樂譜視唱法
- 二 豫備教練としてニ調階名にて左の練習をなす。
1. 2 3 5 | 2 - 0 | 1. 3 5 6 | i - 0 |
5. 3 2 3 | 1 - 0 ||
- 三 前半にある類形旋律 1. 2 3 5 | と 1. 3 5 6 | とを誤唱せぬやうに注意する。

七 六

燕

要旨 本歌曲を授け、ニ長調樂譜の視唱に習熟せしめ、初夏の候に來る候鳥を歌ひて、輕快なる感じを與へる。

高等二年第一學期

四 諸處に散在する連合八分音符は、稍もすれば 1. 3... の如く歌ひ誤ることあり、能く等時價に歌ふべきである。

五 曲想は長閑にのびくと、速度は餘り早くなく歌ふ。

○基本練習

音階練習 左の五度音程の練習をなす。

1 3 5 1 | 5 - 0 | 2 4 6 2 | 6 - 0 |

3 5 7 3 | 7 - 0 | 4 6 i 4 | i - 0 ||

同時に下行形式をも課す。

○樂典大要

ニ長調音階の構成要件を説明する。

(イ) ニ音を基音として構成する。

(ロ) 音階構成の要件として、第三音及第七音を半音上行する。

○補充教材

櫻 散る (中田氏中學唱二)

右の歌曲を授け、スタカートの歌ひ方に習熟させ、櫻散る風情を敘述して、快活なる心情を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法

11 | i-60 | i-50 | 2320 | 2150 |
 | 3565 | 3210 ||

- 右はニ長調階名にて、板書したるを視唱せしめながら練習する。
- 第二段の・i音の連続的に出でたるは、終りになるに従つて上下行せぬやうに、その高度を注意する。
- 第一段及第四段にある各小節の四分休符は、一拍を正しく休止する。尚、上段の第三小節にある連合十六分音符は、拍子の切迫せぬやうに歌ふ。
- 五 曲想は輕快に、速度は四分音符で百十六位に歌ふ。

○基本練習

發聲練習 ア音にてクレスセンド、デクレスセンド、又は一音宛血弱を附して練習を行ふ。
 節奏練習 本歌曲中の第二段に現はれた形式の節奏を練習する。

○樂典大要

- ニ長調階の構成に就て説明する。
- (イ) ニ音を其音として構成する。
- (ロ) 該音階の要件として、第三音及第七音を半音上行する。
- 難記號として左の記號を授ける。
- (イ) Poor Fit の名稱及効用。

海樓眺望

(中等唱)

要旨 本歌曲を授け、三拍子歌曲の歌ひ方に習熟させ、海邊の敘景的内容に依りて、快活なる情操を養ふ。

要項

- 一 樂譜視唱法 ト長調に移調して表示し、原調にて奏唱する。
- 二 豫備教練として左の三拍子の斷片を練習する。第四音は特に注意する。
 | 333 | 542 | 222 | 431 | 232 | 1-0 ||
- 三 各所に散在する第四音4を中心としての諸音程に注意して歌はしめる。
- 四 各所に散在する四分休符が消滅せぬやうに一拍を正しく休止する。その爲には、その前にある四分音符を一拍正しく歌ひ切る。
- 五 曲想は快活に、速度は表示せられたるを正しく守る。緩徐に過ぐれば、曲趣を害ふ。

○基本教練

○聽覺練習 本歌曲中の一断片を變形して聽取せしめる。
音程練習 左の六度音程を音階圖に依りて指唱せしめる。

1 2 3 4 | 5 6 1 - | 2 3 4 5 | 6 7 2 - | ...
右は上下行共に一音程を正しく歌はしめる。

○補充教材

綠 (中等唱)

右の歌曲を授け、變格小節歌曲の歌ひ方に習熟させ、深緑の爽快さを旋律に依つて玩味せしめて、快活なる心情を養ふ。

朝

(中音唱)

要旨 本歌曲を歌はしめ、爽快なる夏の朝に活動することの愉快さを味はせ、爽快なる感じを起させる。

要項

- 一 樂譜視唱法
- 二 豫備教練として左の事項を練習する。但しニ調階名にて行ふ。
1 7 6 5 | 6 7 1 - | 1 2 3 1 | 2 3 5 - |
6 5 6 5 | 3 2 1 - ||
- 三 第七音の7音が兎角狂ひ易ければ、充分に注意して歌ふ。尙、第二段と第四段

月・週	九月
第二學期	樂しき農夫 (中等音二)
教授事項	<p>との類形旋律が誤唱され易ければ注意する。</p> <p>四 第三段の八分音符が並列せられたる個所は、拍子が切迫し易く、且つ曖昧となる恐がある。</p> <p>五 曲想は樂しき氣分に、速度は表示されたるを嚴守する。</p> <p>○基本練習</p> <p>音階練習 左の形式の音階をハ長調階名にて行ふ。但し下行形式も授ける。</p> <p>1 3 5 1 7 6 5 4 3 2 1 2 4 6 2 1 7 6 5 4 3 2 3 5 1 3 2 1 7 6 5 4 3 2 1 - - 0 </p> <p>○鑑賞資料</p> <p>夏の興 (田村氏中唱)</p> <p>右の歌曲を聽かしめ、夏の興趣を味はせて、爽快なる感じを起させる。但し感想を整理することは、前例に依りて徹底的なるを要する。</p>

教授豫定時數凡十三時

唱歌教授細目

要旨 本歌曲を歌はしめ、六度及七度音程の歌ひ方に習熟させ、田圃に楽しく働く農夫の愉快なる有様を歌ひ、職業に親みの感を起さしめると同時に、快活なる情操を養ふ。

要項

一 楽譜視唱法

二 豫備教練として左の音程をへ長調階名にて練習する。

1 4 6 i | 6 - . 0 | 5 4 3 1 | 5 3 2 2 | 1 - . 0 ||

三 第一段にある 1 4 6 i | の音程、次に錯綜せる七度及六度音程を何れも正確に歌はしめる。

四 各所に散在する附点四分音符の一拍半は、正しくその時價を歌ひ、次の八分音符に移る。

五 曲想は樂しげに、速度は餘り急速でなくのんびりと歌ふべきである。

○基本練習

音階練習 左の節奏形式を有する音階を階名にて練習する。

1 . 2 3 . 4 | 5 . 6 7 . i | 2 . 3 2 . i | 7 . 6 5 . 4 |

3 . 2 1 . 3 | 5 . i 5 . 3 | 1 - . 0 ||

聲響練習 前學期の例に倣ひ、強弱を自由に着けて歌ひ得る練習をする。

○樂典大要

へ長調音階の構成を説明する。

秋

景 (小學唱五)

要旨 本歌曲を授け、へ長調曲の唱謠に習熟させ、秋景色の悠長閑雅なる氣分を玩味させ、快活なる心情を陶冶するを以て要旨とする。

要項

一 楽譜視唱法

11 | 5 | 1 . 3 5 3 | 5 . 6 3 2 | 4 . 2 3 1 | 3 2 1 - ||

右をへ長調階名にて、拍子を主として練習する。

三 第一段第四小節の 6 3 の完全四度音程は、3音を美しく下行しく歌ひ、第二段第四小節の 2 の短三度は、2音を確實に高度を取る。

四 第二三段各第三小節の並列八分音符は、拍子が切迫せぬやうにのび／＼と歌ふ。
五 曲想は悠長に、速度は四分音符一〇八位に歌ふ。

1 3 5 3 | 1 5 1 —

三 後半の 5 3 1 5 . . . の各音を正確に歌ひ、特に5・音は確實なるを要する。

四 輪唱の場合に、特に拍子を正確にし、音と音との和聲を完全ならしめる。

五 曲想は快活に、速度は中等の速さにて歌ふ。

○基本練習

音程練習

1 2 3 4 5 6 7 i — | 1 7 6 5 4 3 2 1 —
1 7 1 2 3 4 2 3 — | 3 5 4 3 2 1 7 1 —

右をハ長調階名にて授ける。二組を交互にその音部を交代する。

○樂典大要

輪唱歌の大意を説明する。

(イ) 同一の旋律を甲乙二組が、一定の間隔を置いて唱誦する。

(ロ) 而かも兩者の歌ふ聲音が、調和して一種の快感を伴ふ。

○補充教材

演習 (中等唱歌)

右の歌曲を授け、八分音符にて構成せる歌曲の歌ひ方を知らしめ、演習の勇壯なる光景を歌ひて、活潑なる氣象を養ふ。

吉田 松 陰 (中等唱歌)

要旨 本歌曲を授け、讀本にて授けたる吉田松陰に關聯して、その風格偉業を偲び、壯快なる心情を陶冶する。

要項

一 樂譜視唱法

二 豫備教練として左の事項をハ長調階名にて授ける。

5 i 7 i | 2 3 i 6 | 5 # 4 5 — | 4 4 3 2 —

3 6 5 i | 3 2 i —

三 第一段第二小節の第七音は、下り過ぎる位に、同段第五小節の第四音は下らぬやうに、共に高度に注意する。臨時嬰音も充分上げる。

四 各所に在る八分音符は、消滅せぬやう正しく半拍を休止する。その爲には前の附點四分音符を一拍半にて歌ひ切る。

五 曲想は雄壯に、速度は四分音符九十六位に歌ふ。

○基本練習

音程練習 左の形式の六度音程をハ調階名にて授ける。

1 . 3 5 | 6 1 0 | 3 . 5 7 | i 3 0 ||

拍子練習 既習の三拍子に就て問答し、本歌曲の一部を摘出して拍子の吟味をなす。

5・5 | 1・17・1 | ... は節奏としても吟味する

第三學期

教授豫定時數凡九時

月・週

教 授 事 項

一 月
二 月
三 月

國の鑲め

(女音教三)

要旨 本歌曲を授け、重音曲の歌ひ方を知らしめ、和聲の趣味を養ひ、修身科の義勇奉公の意義を徹底し、壯大なる氣象を涵養する。

要項

- 一 樂譜視唱法
 - 二 左の事項を豫備教練として、へ長調階名にて一小節宛を授ける。

1 2 3	—	1 6 5	—	3 2 1	—
1 5 1	—	1 4 3	—	1 7 1	—
 - 三 第二段の16の六度音程、及46の三度音程、低音の14に於ける完全四度音程の4音の高度を注意する。
 - 四 スタッカットは、恰も八分音符の如くに而かも鮮明に歌ひ、アクセントの附され

たる二分音符は、一個宛力強く歌ふ。

五 曲想は壯大に、速度は緩徐に過ぎぬやうに歌ふ。

○基本練習

音階練習 左の重音々階をハ長調階名にて授ける。但し低音部を先に練習する。

1 2 3 4 5 6 7	1 2 3	—	3 2 1 7 6 5 4	3 2 1	—
1 7 1 2 3 4 2	3 5 1	—	5 4 3 5 4 3 2	1 7 1	—

○樂典大要

重音唱歌の大要を説明する。

(イ) 數音を同時唱して、和聲の法則に叶ひ、調和の快感を與へる唱歌を云ふ。

(ロ) 二音部なるを二重唱、三音部なるを三重唱、四音部なるを四重唱と云ふ。

○鑑賞資料

樂 隊 の 響 (風琴曲集)

右の器樂曲を授け、管樂合奏の響を彷彿させて、快活なる氣分に到らしめる。但し感想を整理することは前例の通り。

フーターロ

(中等唱歌)

要旨 本歌曲を授け、ト短調曲を知らせ、讀本のナポレオンの事項に關聯して、その徹底を計り、悲壯の感じを起させる。

要項

高等二年第三學期

二

月
六 五 四

一 楽譜視唱法

二 豫備教練として左の事項をト短調階名にて授ける。

3 6 3 7 | 3 4 3 | 4 6 3 3 | 4 3 2 |

3 7 1 7 | 6 - . 0 ||

三 第一段第一二小節に跨る37の完全五度音程、同段第四小節の36の完全五度音程を共に正確に歌ふ。

四 發想及速度の特種記號の附されたる處を、特に注意して歌はしめる。

五 曲想は悲壯に、速度は四分音符百位に歌はしめる。

○基本練習

音程練習

左の短音階をト短調階名にて練習する。

6# 5 6 7 | i 2 3 | 3 4 3 2 | i 7 6 | 6 5 4 3 | 2 3 6 |

拍子練習 二拍子の空畫節を課し、速度の變化に注意する。

○樂典大要

速度記號の大要を授ける。

(イ) *Meno mosso.* の名稱及効用。

(ロ) *Al tempo.* の名稱及効用。

雜記號として左の事項を授ける。

Dim. の名稱及効用。デクレセンスェンドと同様なることを説く。

仰げば尊し (小學唱三)

要旨 本歌曲を授け、一は儀式に備ひ、師恩を感謝すると同時に眞摯なる感情を養ふ。

要項

一 樂譜視唱法 ニ長調に移調して歌ふ。

二 豫備教練として、左の事項をニ長調階名にて授ける。

5 3 5 6 | i 7 6 5 | 3 2 6 5 | 7 1 - 0 ||

三 第二段末尾の57の短六度音程は、7・音を確實に歌はしめる。第四段末尾の424の短三度音程も確實なるを要する。

四 各段末の附點四分音符及四分音符の結合したるは、五拍を正しく歌ひ、次の八分音符を拍子正しく歌ひ出す。

五 曲想は眞心を込めて、速度は緩徐に流れぬやうに歌ふ。

○基本練習

音程練習 左の八度音程を階名にて練習する。下行形式も併せて授ける。

1 3 5 i | 1 - . 0 | 2 4 6 2 | 2 - . 0 | 3 5 7 3 | 3 - . 0 ||

その他の基本練習を總括し、技術と知識とを確實になし置く。

○歌曲復習

既習歌曲の凡てを復習し、その技術を確實にする。

復習すべき回答叙述等の方法を講じ、徹底的に復習を行はねばならぬ。

備考

- 一、本學年には、簡易なる重音歌曲を授けるやうに排列したから、和聲法及重音々階を充分に練習することを要する。
- 二、眞に唱歌を理解するには、創作して見ることが捷徑であるから、特別に細目中に掲示してなくても、臨機に試みるがよい。
- 三、變聲期の兒童が大部分を占めて居るだらうから、歌曲の調子を移調して苦痛を與へないやうにする。
- 四、自力唱謠力に自信の稍々出來た時期であるから、力めて自學自習の風を助長せねばならぬ。
- 五、各種の音樂的作業は、その努力の結果を瞭然たらしめる爲に、筆記の整理、樂典の表解、作曲等に就て教師は時々檢閲し指導する。

大正十二年七月二十日印刷
大正十二年七月廿五日發行

【定價金九拾錢】

不許複製

著者	初等教育研究會
發行者	東京市京橋區銀座二ノ一五 株式會社 培風館
印刷者	東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二 根本力三
印刷所	東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二 株式會社 秀英舎第一工場

【目細授教歌唱】

發行所

東京市京橋區
銀座二ノ一五

培風館

電話東京橋三三五
振替東京三二六一七



[Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.]

[Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.]

5-8217

終